

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

腹腔鏡で折り鶴を作る!? ある脳神経外科医の挑戦

An Origami Crane with a Laparoscope:
A Challenge by a Neurosurgeon

板橋悠太郎

Itabashi Yutaro

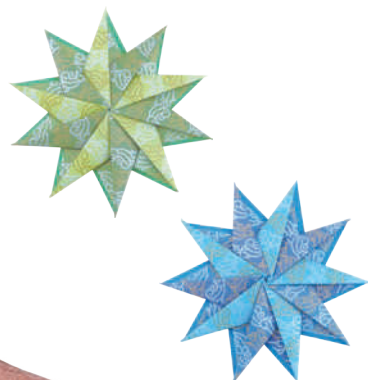
折り図 Diagrams

四五六賽

Cheat Dice

中村 楓

Nakamura Kaede



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

「ティラノサウルス」キム・ドンヒョン

T-rex: Kim Dong Hyeon

おりがみ我楽多市 Origami Odds and Ends

「箱に入った長いしっぽの猫」オ・ギョンラン 「ネコ後ろ姿」神谷哲史

A Long-tailed Cat in a Box: Oh Kyung Ran,
A Cat from the Back: Kamiya Satoshi

ユニット折り紙カルテット Modular Origami Quartette

「十角花丸」「ストライプ十角星」布施知子

Decagonal Bloom, Striped Decagonal Star: Fuse Tomoko

通巻 **201** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

● 折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線

Line indicating
valley fold

山折り線

Line indicating
mountain fold

手前に折る

Fold paper
forwards

後ろへ折る

Fold paper
backwards

折り筋を
つける

Making a crease line

段折り

Pleat fold

裏返す

Turn paper over

引き出す

Pull out

図の見る
位置が変わる

Rotation

図が大きくなる

A magnified view

見えない
ところ

A hidden line

押す、
押しつぶす

Push paper in

切る

Cut

表紙掲載作品: 「四五六賽」 創作: 中村 楓, 「ティラノサウルス」 創作: キム・ドンヒョン, 「十角花丸」「ストライプ十角星」 創作: 布施知子, 「箱に入ったしっぽの長い猫」 創作: オ・ギョンラン, 「ネコ後ろ姿」 創作: 神谷哲史

“Cheat Dice” by Nakamura Kaede, “T-rex” by Kim Dong Hyeon, “Decagonal Bloom”
“Striped Decagonal Star” by Fuse Tomoko, “A Long-tailed Cat in a Box” by Oh Kyung Ran,
“A Cat from the Back” by Kamiya Satoshi

T-rex: Photo by Kim Dong Hyeon

No. **201**



T-rex: Kim Dong Hyeon

クローズアップ / Close-up

**P.14 腹腔鏡で折り鶴を作る!?
ある脳神経外科医の挑戦**

An Origami Crane with a
Laparoscope: A Challenge by a
Neurosurgeon

板橋悠太郎
Itabashi Yutaro

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

ティラノサウルス

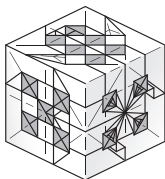
T-rex

キム・ドンヒョン
Kim Dong Hyeon

P.27 四五六賽

Cheat Dice

中村 楓
Nakamura Kaede



カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・前川 淳
Comments: Maekawa Jun

第28回折紙探偵団コンベンション
展示作品
Models Exhibited in the 28th Origami
Tanteidan Convention

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット

Modular Origami Quartette

十角花丸、ストライプ十角星

Decagonal Bloom, Striped Decagonal Star

布施知子
Fuse Tomoko

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

箱に入ったしっぽの長い猫・ネコ後ろ姿

A Long-tailed Cat in a Box, A Cat from the Back

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.16 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

東武東上線・折紙散歩

Origami Sampo along the Tobu Tojo Line

前川 淳
Maekawa Jun

P.18 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『折り紙キャッツ&ドッグス プレミアム』
“Origami Cats & Dogs Premium”

亀井浩平
Kamei Kohei

P.39 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

オリオール・エステベ

Oriol Esteve

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.17 マコトか。

～やまぐち真の回想録～

Makoto or Not?: Memoirs by Yamaguchi Makoto

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

P.37 おりすじ

Orisuzi (“Fold-Creases”)

長山海澄
Nagayama Kaito

P.38 折り紙千夜一夜

One Thousand and One Nights of Origami

前川 淳
Maekawa Jun

情報 / Information

P.40 つまみおり Rabbit Ear

名古屋コンベンション開催決定

The Origami Tanteidan Nagoya Convention Will Come Back!

十角花丸

Decagonal Bloom

用紙: 7.5×7.5cmが基準

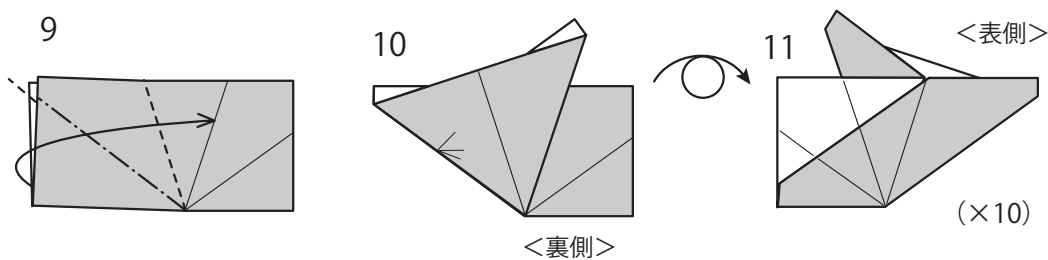
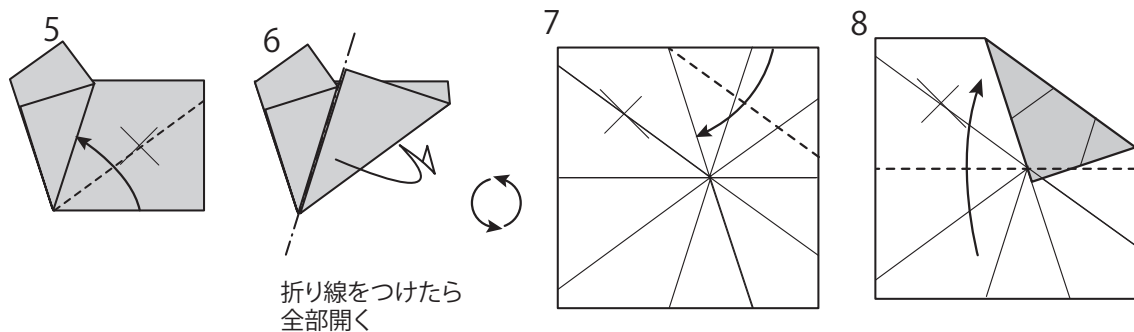
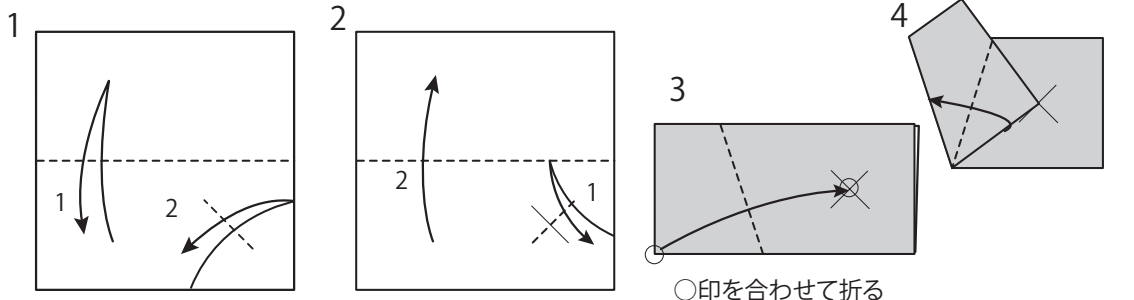
10枚で平面に組むユニットです。

しっかり組みあがります。



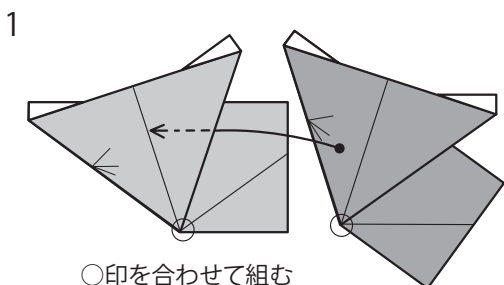
布施知子

Fuse Tomoko

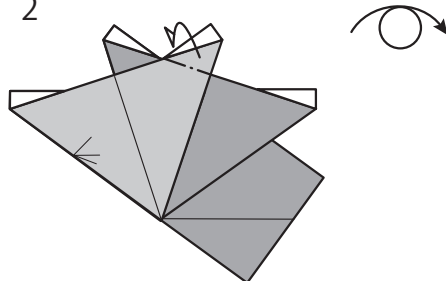


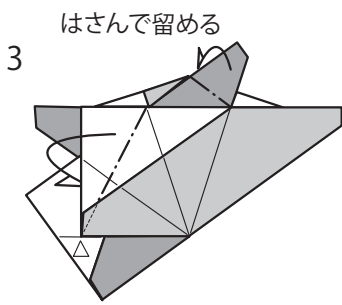
[組み方]

まず裏側を見て組む

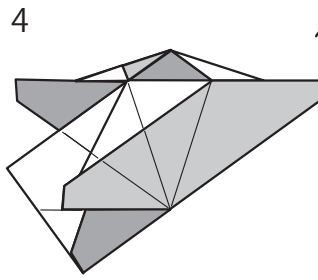


2 間にはさむ

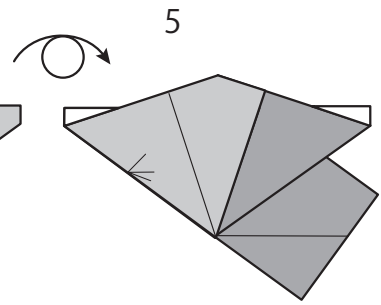




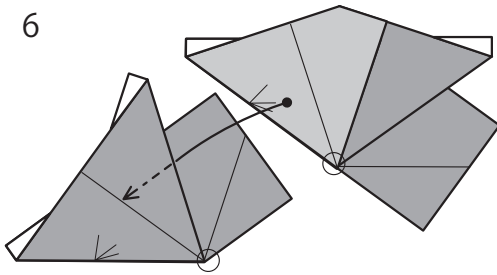
△のかどで折る



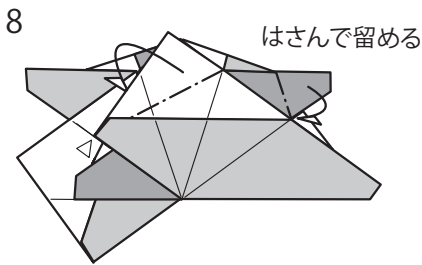
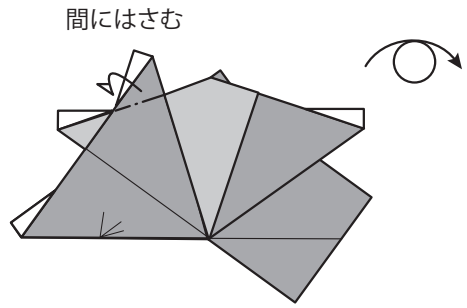
(手順3を折ったところ)



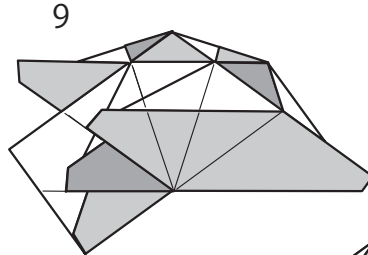
(4の裏側)



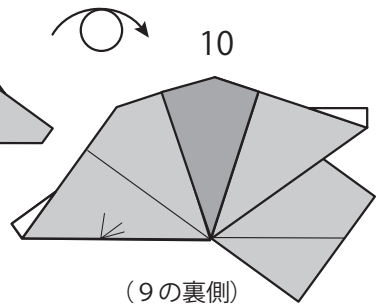
7



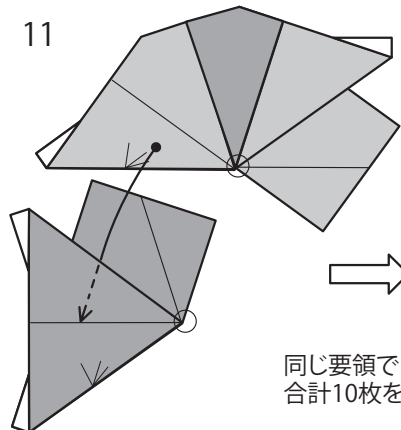
△のかどで折る



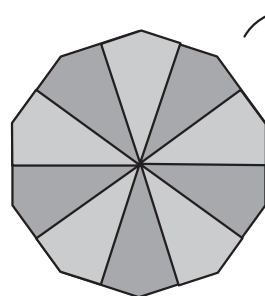
(手順8を折ったところ)



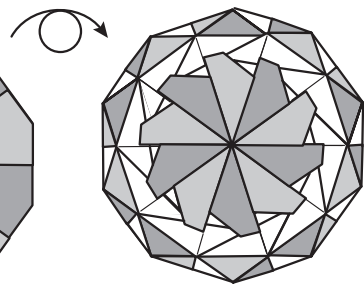
(9の裏側)



同じ要領で
合計10枚を組む



<裏側>



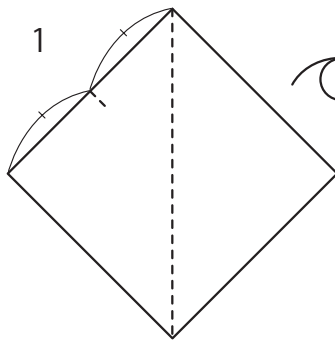
<表側>

ストライプ十角星

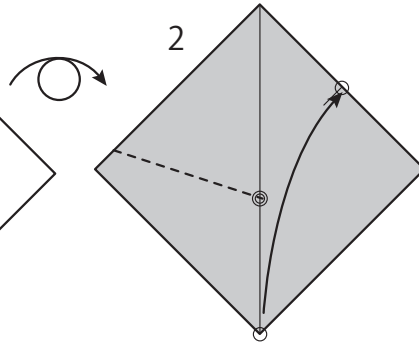
Striped Decagonal Star

用紙:7.5×7.5cmが基準

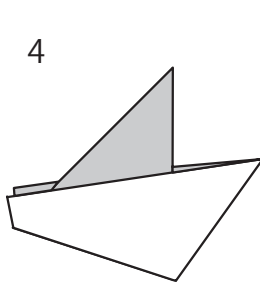
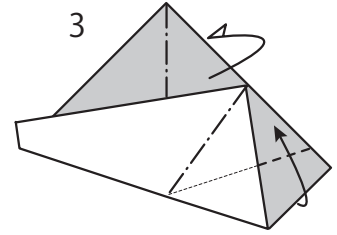
10枚で組むと、ストライプの模様が出ます。



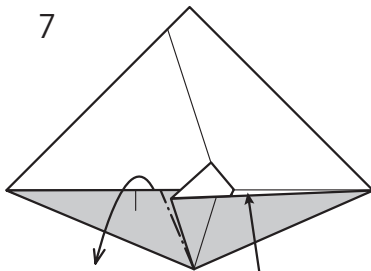
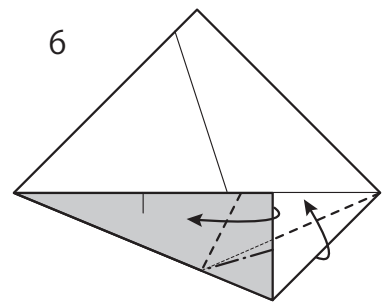
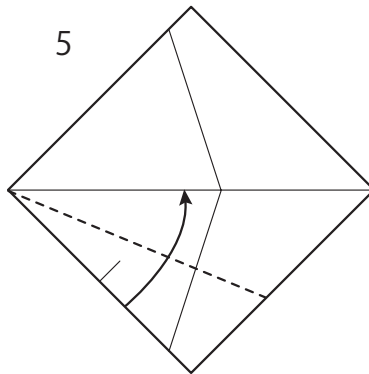
図のような谷線をつける



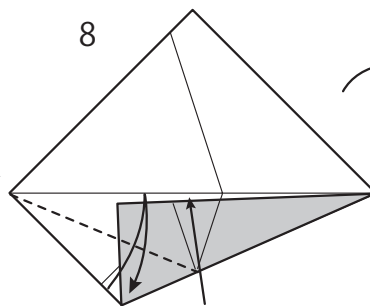
○印を合わせて、◎まで折る



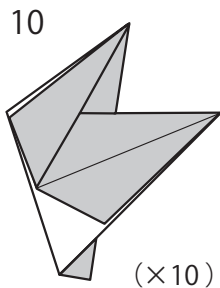
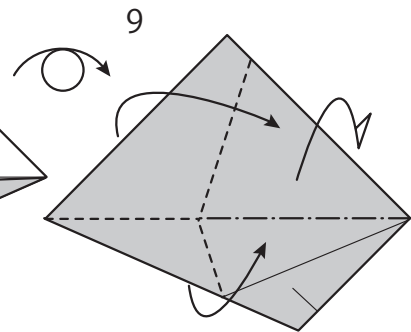
全部開く



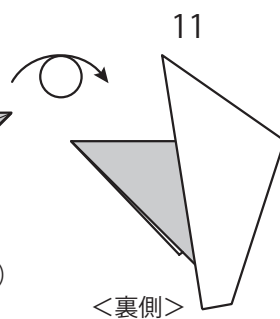
ここは少しあく



ここは少しあく

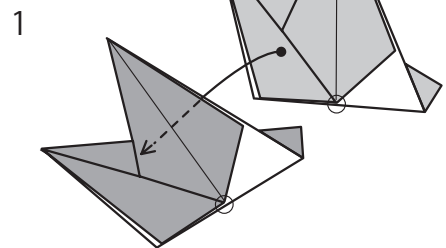


(×10)

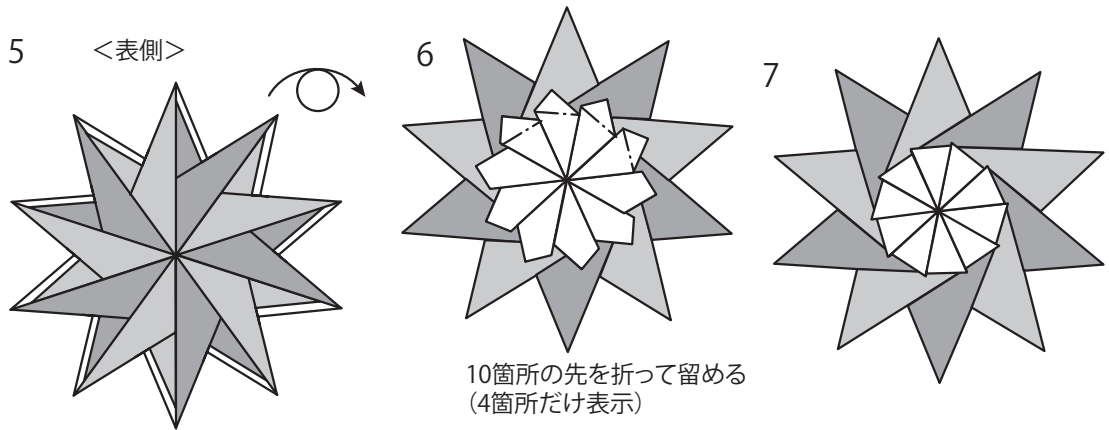
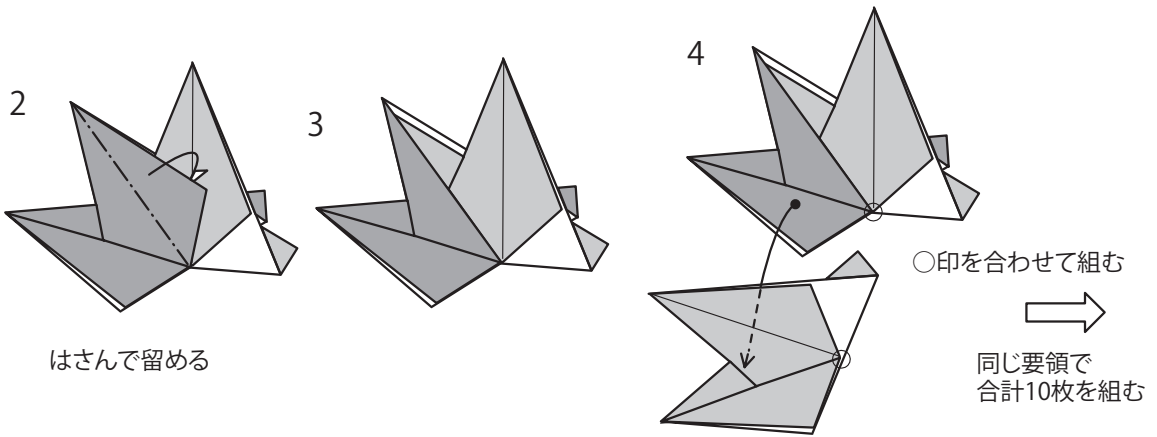


<裏側>

[組み方]



1



折り紙の
周辺

第120回
数学オリンピック
International
Math Olympiad

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

高校生たちが世界中から集まって難問に挑む第64回国際数学オリンピックが今年7月に幕張で開催された。その休憩時間にユニット折り紙をやりたいということで、おりがみはうすから紹介されて教える機会を得た。

主催者からは、みんなで協力して大きなものを作り上げたい、一つは壁面、一つは立体という希望を伝えられた。会場は娯楽室でオープン教室とのこと。講習は全て英語で行なう。モデルの選定から始まった。数点

を提案した結果、壁面は正三角形から折る「おむすび」と「三つ葉」(『折り紙でつくる、モチーフつなぎ』<PHP>参照)のセットをガasketに繋ぐことになった。色は幕張の海をイメージした青を基調にした。立体は笠原邦彦さんの立方体「リボン」をジョイント材で繋ぐ作品(『生長する立体』<筑摩書房>参照)。これはとても古い作品だ。笠原さんには作品使用を快諾していただいた。

見本を用意して本番に臨んだ。会場は中央にDemaineさん親子の作品があり、ビデオが流されていた。他は折り紙、ゲーム、パズルのコーナーがあり、お菓子まで山盛りに用意され、学生たちの疲れたアタマと体をしばし癒す場であった。

初めは緊張したが、訪れる学生は礼儀正しく真っ直ぐな瞳をしており、楽しく折り紙することができた。私たちスタッフの他は会場に日本人の姿

はほとんどなく、ここが日本とは思えなかった。

ユニット立体を複数人で組むのは難しいと踏んでいたが、やはりそう、いつしかニュージーランドから来た熱心な一人が中心的に組んでいた。2日間会場にいたが、立派な大きい立方体の集合体ができ

壁面のガasketは、およそ5×1.8mのボードにデザイナーの手であらかじめ原寸大で薄く線描され、そこに学生たちが折ったものを自由に貼っていく仕様だった。壁面が埋まっていくにつれて迫力が出て美しくなった。

この会場を仕切った香港に本社がある社長さんは、この壁面が気に入って、終わったらそのまま香港のオフィスに持って行って飾るとのこと。

講習に参加してくれた学生たちの未来に幸多かれ。

第120回 箱に入ったしっぽの長い猫
A Long-tailed Cat in a Box

作・折り図:オ・ギョンラン
Design & Diagrams by Oh Kyung Ran

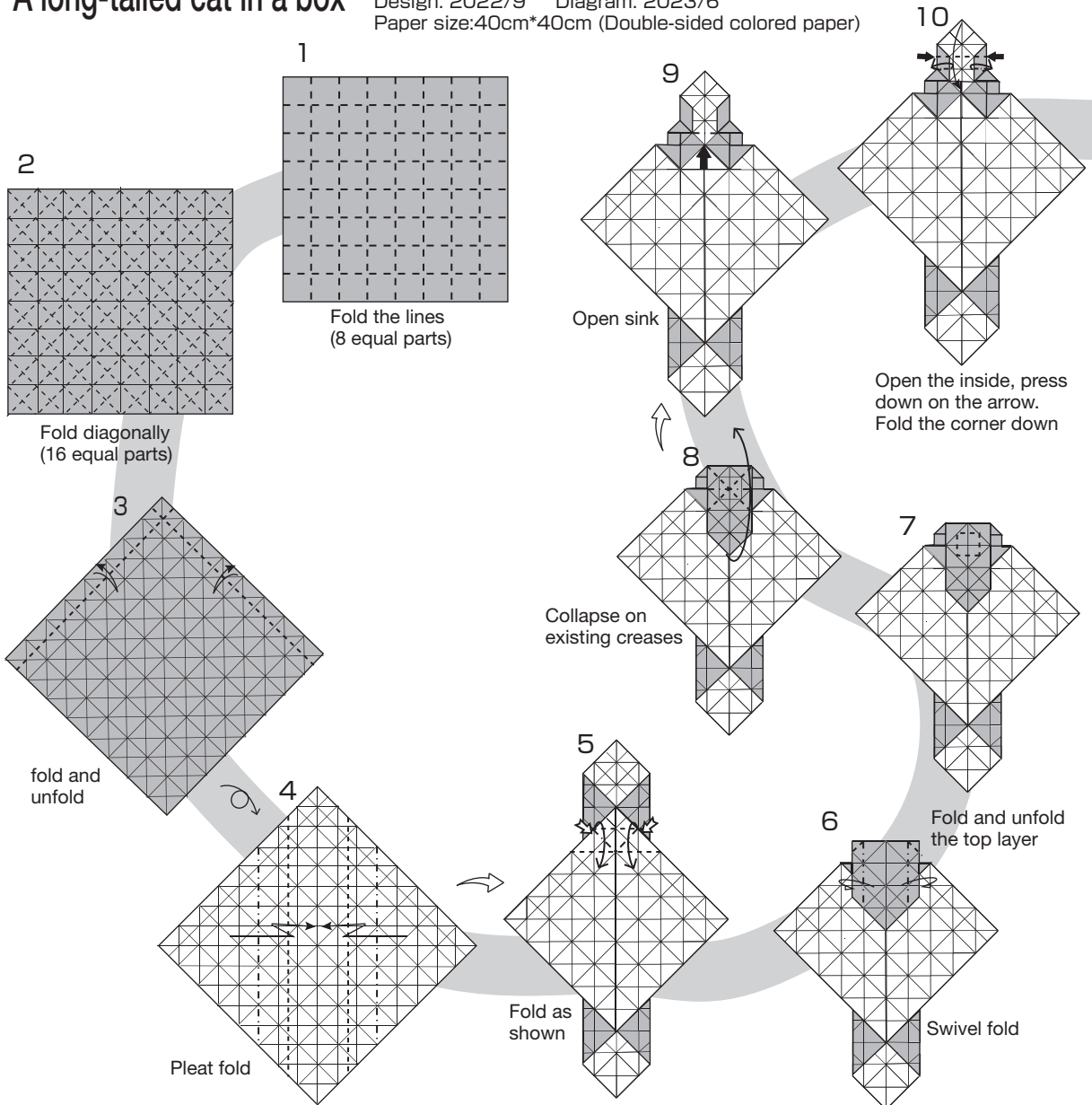
ネコ後ろ姿 A Cat from the Back

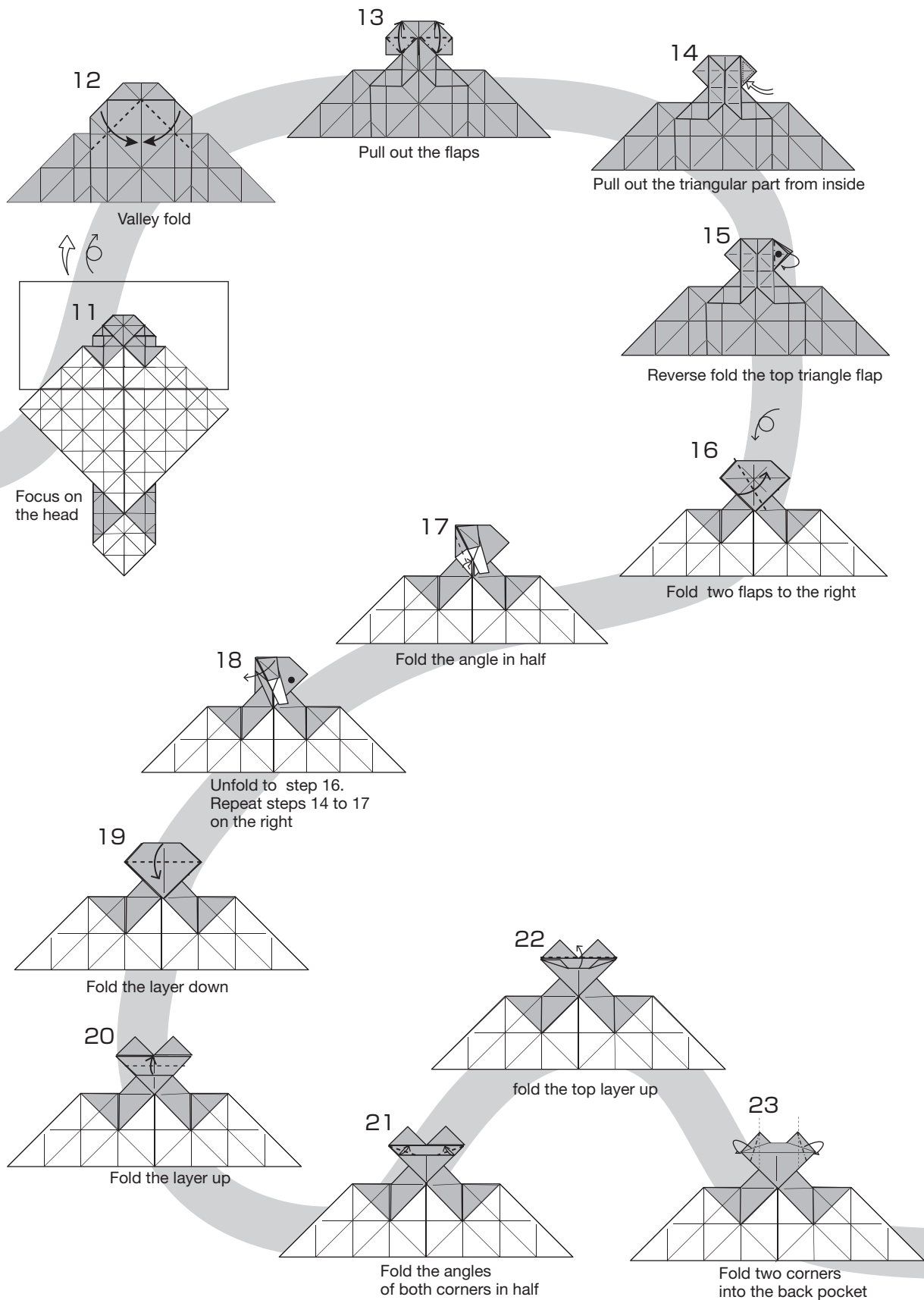
作・折り図:神谷哲史
Design & Diagrams by Kamiya Satoshi

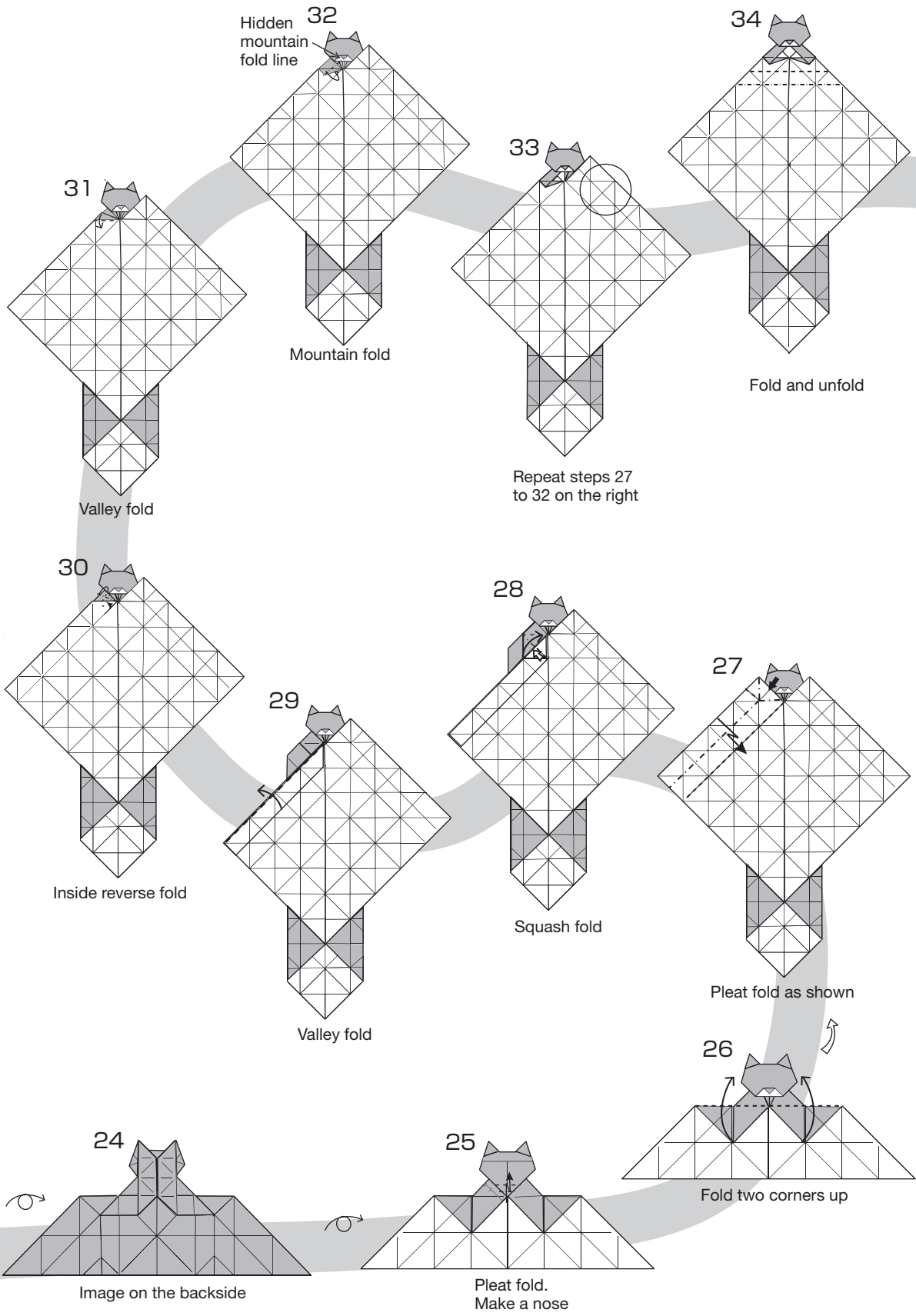


A long-tailed cat in a box

Design and diagram: Oh, Kyung Ran (오경란), KOREA
Design: 2022/9 Diagram: 2023/6
Paper size: 40cm*40cm (Double-sided colored paper)







32
Hidden mountain fold line

34

31

33

Mountain fold

Fold and unfold

Valley fold

Repeat steps 27 to 32 on the right

30

28

27

Inside reverse fold

29

Squash fold

Pleat fold as shown

Valley fold

26

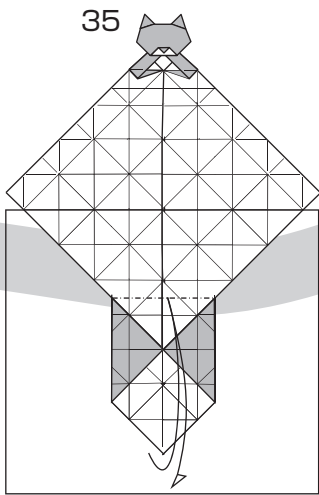
24

25

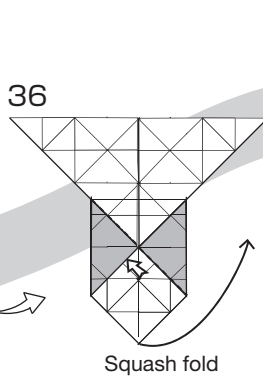
Fold two corners up

Image on the backside

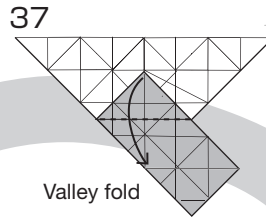
Pleat fold.
Make a nose



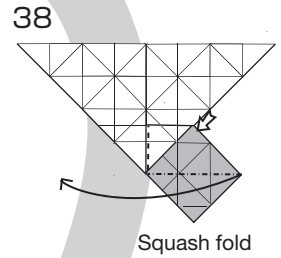
Fold and unfold



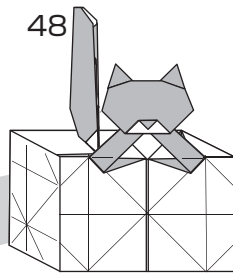
Squash fold



Valley fold



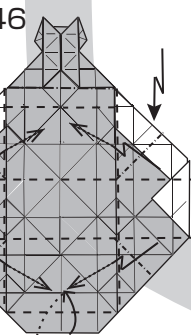
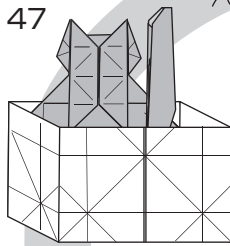
Squash fold



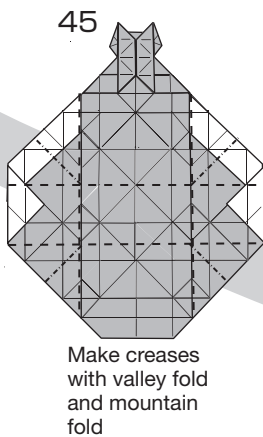
This is the cat from the front.



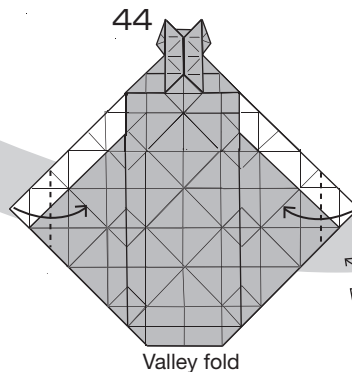
A long-tailed cat in a box.



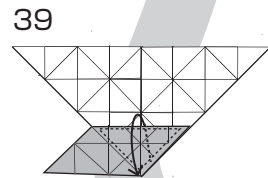
*Insert all four corners into the pocket of the box.
Up:Pleat fold
Down:Valley fold



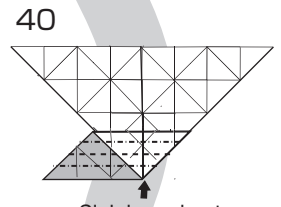
Make creases with valley fold and mountain fold



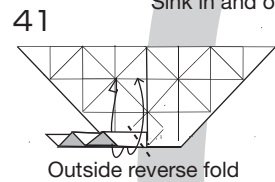
Valley fold



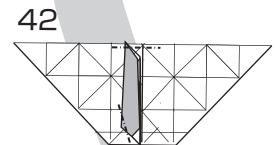
Pull out the triangular part from inside.
Fold in the same way as in step 37



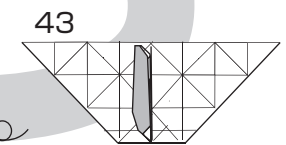
Sink in and out



Outside reverse fold



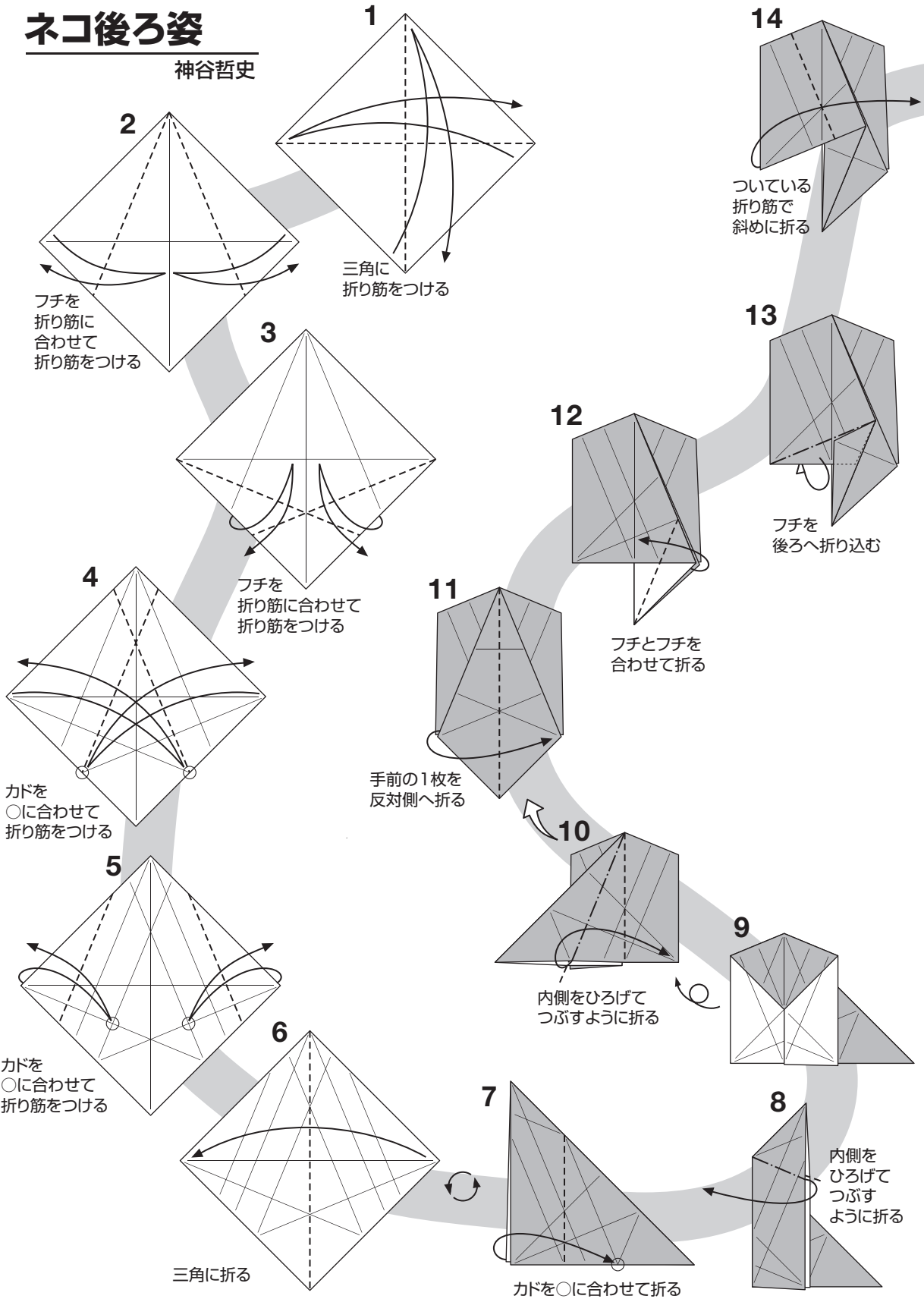
Up: Inside reverse fold.
Down: Open sink(Push in the corner)



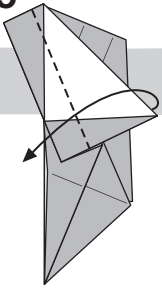
The tail is completed

ネコ後ろ姿

神谷哲史

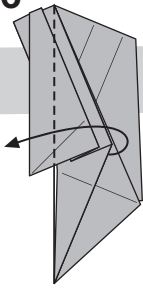


15



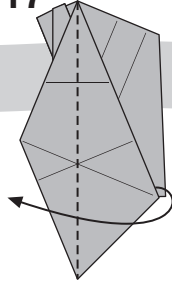
ついている折り筋で
反対側へ折る

16



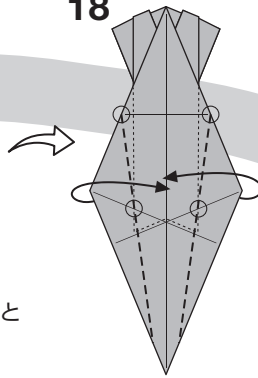
まとめて
反対側へ折る

17



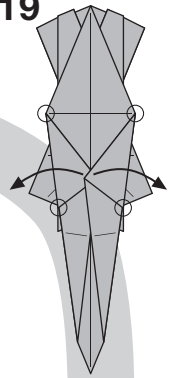
反対側も11~16と
同じように折る

18



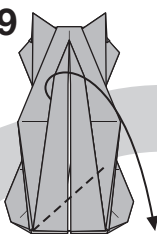
○を通る線で折る

19



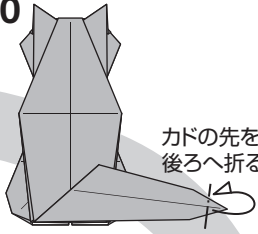
しっかりと折り筋を
つけてから戻す

29



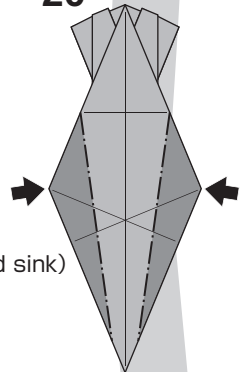
カドを横へ折る

30



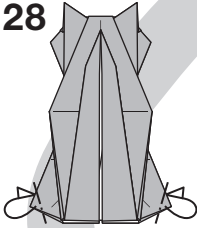
カドの先を
後ろへ折る

20



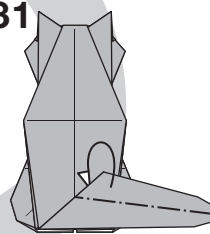
沈め折り
(Closed sink)

28



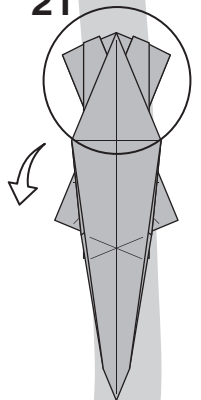
カドを後ろへ折る

31

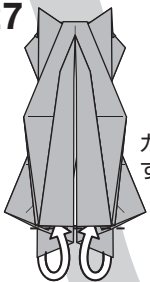


フチを後ろへ折る

21

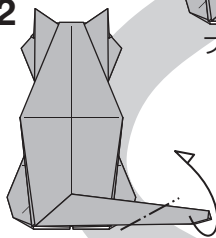


27



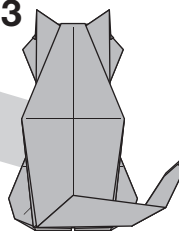
カドをまとめて
すき間に折り込む

32



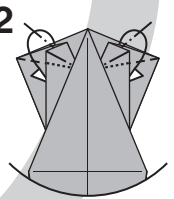
カドを斜めに折る

33



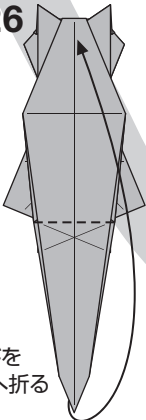
できあがり

22



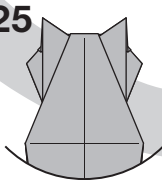
フチを内側に
折り込む

26

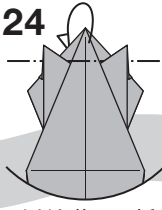


カドを
上へ折る

25

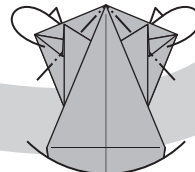


24



カドを後ろへ折る

23



カドを後ろへ折る

腹腔鏡で折り鶴を作る!? ある脳神経外科医の挑戦

An Origami Crane with a Laparoscope:
A Challenge by a Neurosurgeon

板橋悠太郎
Itabashi Yutaro

◆はじめに

2023年、自分は医師になって5年目を迎えた。率直に言うと、新人を名乗るには歳を食い、経験者を名乗るには若すぎる、専門医も学位も未取得の未熟者である。一方、折紙指導員としては11年目だが、作品数や折り図発表の経験不足を考えると、折り紙作家としてもまだまだ修行の途上である。

そんな2023年2月、あるテレビ番組を観て衝撃を受けた。外科医が腹腔鏡の道具を使って折り鶴を作る大会が開かれたというのだ。聞くところによると、友人の外科医には参加募集の案内があったらしい。医療と折り紙の思わぬ形での邂逅。普段は折り紙作家である自分だが、今回は脳神経外科医の視点から、腹腔鏡折り鶴の世界に迫ってゆく。

◆そもそも腹腔鏡とは?

腹腔鏡とは、腹部に1センチ程度の穴(ポート)を開け、その穴から入れる手術用カメラのことである。他の穴から鉗子(かんし)や電気メスを入れ、臓器の摘出などの手術を行うのが「腹腔鏡手術」である。俗に胃カメラや大腸カメラと呼ばれる「消化管内視鏡」とは別物だが、体内の空間をカメラで覗くという発想は一緒である。腹



▲図1:内視鏡アーム。上から鉗子(かんし)、剪刀(ハサミ)、持針器。長さはいずれも30cm程度

腔鏡手術を行う診療科、扱う臓器は以下の通り。

消化器外科…胆のう、胃、大腸など
産婦人科…子宮、卵巣など
泌尿器科…腎臓、膀胱など

これまでは手術の際、腹部に大きな傷を作って開く必要があったが、腹腔鏡手術では傷口が小さく済むという利点がある。一方で、細長いアームを手で操作しながら手術を行うには技術が必要であり、視野と道具が限られるため、予期せぬ合併症も起きうる。そのため、外科医達は日々専用の道具を用いてトレーニングを行っている(図1,2)。

余談ではあるが、自分が所属する脳神経外科にも、神経内視鏡と呼ばれるものがある。頭蓋骨に小さな穴を開け、脳室(脳の中の空間)の腫瘍摘出や鼻の穴から下垂体(ホルモンを出す器官)を手術する時に使われる。自分もこれまでに数例内視鏡手術を行ったが、頭蓋骨を開けて直接脳を手術するのはまた違う技術が必要であった。



▲図2:腹腔鏡練習キット"ドライボックス"。ドームの穴から2本の腹腔鏡アームを入れる。手前にあるカメラで中の映像が画面に映し出される

外科医には高い技術を要求されるが、内視鏡(腹腔鏡)手術の台頭により、これまで大きな傷を作らなければならなかった手術が、小さな傷で尚且つ短時間で済むようになった。医療の技術革新が、患者にも医師にも恩恵を与えているのである。

◆神の手チャレンジ

医学の発展は日進月歩であるが、そんな中、腹腔鏡手術の技術向上に折り鶴を取り入れた医師達がいる。腹腔鏡で折り鶴を作り、その早さと美しさを競う「神の手チャレンジ」は、YouTubeやFacebookで徐々にその輪を広げ、2022年12月には全国大会が開催されたという(2023年2月のテレビ番組はこちらの大会取材したもの)。大会では、日本中から腹腔鏡を扱う様々な分野の外科医達が集まり、その腕を競い合っていた。

映像を見てみると、7.5cm四方の折り紙から非常にスムーズなアーム捌きで折り鶴が形作られてゆくのが分かる。2022年の大会では、優勝した医師は4分55秒で折り鶴を完成させていた。一見簡単そうに見えるが、一部参加者の苦戦している様子を見ると、一筋縄ではいかないようである。

◆現場の医師はどのように考えているのか?

自分と同じく群馬で働いている、消化器外科医、産婦人科医、泌尿器科医の友人達に、本チャレンジのことを尋ねてみた。

泌尿器科医 S先生:2本のアームで折り鶴を折るのは難しい。もう一本のアームでトラクション(牽引)している先生もいる。今はダヴィンチ(手術用

○板橋悠太郎(いたばし・ゆうたろう)=1993年群馬県生まれ。脳神経外科医として働く傍ら、折り紙作家としてボランティア活動、作品発表を行っている。医師歴5年、折紙指導員歴11年。

Instagram: @bacillus_origami
X: Bacillus_anth



ロボット)が普及し、それには関節があるので更にやり易いかもしれない。**産婦人科医 T先生**: 鉗子で折り鶴を折る練習は、綺麗に折るのは大変難しいですが、実際の手術における操作性の向上に役立つと考えられます。また、折り紙は破れやすいので、愛護的に組織を扱う練習にもなります。

消化器外科医 M先生: 腹腔鏡で折り鶴を作る大会があるというのは知っていたが、実際に折るのは難しいと思う。この病院には練習キットがあるので、良ければ挑戦してみたら?

…ということで、脳神経外科医が腹腔鏡折り鶴にチャレンジすることとなった。ちなみに、腹腔鏡は大学の学生実習で少し触った程度である。外科医の友人達が口を揃えて「難しい」という腹腔鏡折り鶴、果たして完成なるか…?

◆脳神経外科医、神の手チャレンジに挑戦!

病院の腹腔鏡練習キット「ドライボックス」に折り紙をセットし、腹腔鏡のアームを入れる。7.5cmの折り紙が、カメラ越しである事に加えて緊張感も重なり、一層大きく見えた(図3)。

…これは難しい。まず紙を掴む時点で苦戦する。アームでようやく紙を掴

めても、それを三角に折ろうとするとどうしてもカドが合わない。人間の指が如何に精緻な動きをしているか痛感した。と同時に、この操作を難なくこなす外科医に頭が下がる思いであった。

内視鏡を握る手が痛くなってきたが、何とか花弁折りまで終えることができた。この時点で、30分を過ぎていた。あと少し…と思ったが、ここからが更なる難所であった。普段息をするように出来ている中割り折りが、どうやっても出来ないのである。泣く泣く広げて段折りするが、ズレの積み重なりで上手く首の形にならない。

こうして1時間かけて、ようやくポロポロの折り鶴が完成した(図4)。誌面に出すのは恥ずかしいくらいの出来だが、神の手チャレンジが如何に難しいか知っていただくために、恥を忍んで掲載させて頂く。

自分は過去に、目隠し折り鶴や片手折り鶴、箸折り鶴に挑戦してきたが、腹腔鏡折り鶴はそれとは比べ物にならない位難しいことが分かった。5分でこれを仕上げる外科医は、まさに「神の手」である。

◆チャレンジを終えて

「折り紙と思うな、患者と思え!」という、神の手チャレンジ主催者の言葉が

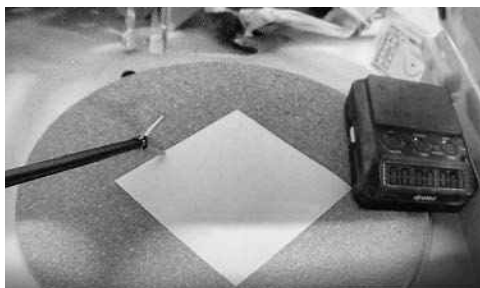
ある。実際このチャレンジでは、どれだけ苦戦しても最後まで折り上げることを推奨している。実際の手術は、途中で投げ出すことができないからだ。

そもそも外科医達は、曲芸としてではなく、自己の技術を更に高めるためにこの「神の手チャレンジ」に挑んでいる。どんな手術も、まずは見て学び、助手をして学び、術者に認められてようやく手術を任されるものである。とりわけ腹腔鏡手術は、そう簡単に任せて貰えるものではないという。経験が少ない分、練習でカバーしなければならぬ。折り鶴を早く、美しく作れるようになることは、患者の体内で低侵襲、短時間の手術を完遂させることに繋がるのである。

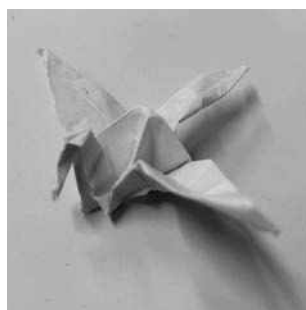
自分も手術だと思って腹腔鏡折り鶴にチャレンジした。結果は散々であったが、何とか完遂することができた。腹腔鏡折り鶴の世界には、遥かに腕の立つ医師が大勢いる。医療に携わる者として、日々努力を重ねて腕を磨くことの重要性を再確認した。

◆最後に

脳神経外科医であるが故に、本企画の真のチャレンジャーとして記事を書けなかったことが悔やまれる。JOAS会員やコンベンション参加者の中にも、医師や医学生の方がいるかもしれない。もし本企画に興味のある方、職場に腹腔鏡の練習キットがある方は是非、腹腔鏡折り鶴にチャレンジして頂きたい。この記事や企画をきっかけに、多くの方が外科系診療科を目指してくれたら嬉しい限りである。自分もいつか、神経内視鏡で神の手チャレンジに参加出来るよう、修行を重ねていく。



▲図3: 腹腔鏡モニター。奥には作りかけの折り鶴や、練習用の針(医療用)がある



▲図4: 何とか完成した折り鶴

○前川 淳(まえかわ・じゅん)＝かつて本誌に連載されていた『折紙散歩』シリーズの振り返り編です。



響きにも、優しさを感じたのだろう。なお、おりがみ公園には、周回の道や模擬の信号機などがあり、交通安全を学ぶ施設にもなっている。



▲図3 アサヒロジスティクスの『『オリガミ』カラー』とおりがみ公園(嵐山町)



◆小川町

小川町は、江戸への紙の供給を支えた紙の町として知られ、和紙を町のアイデンティティにしている自治体である。川越は小江戸だが、こちらは武蔵の小京都とも言われ、散歩がたのしい町だ。町立の図書館は、和紙関連の書籍が充実しているほか、実物の和紙を確

かめることのできる見本架もある。そして、わたしは小川の和紙折り紙用紙を愛用している。特別に薄い紙などを必要とするのでなければ、表裏同色の普段使いの和紙の折り紙用紙としては、小川のもが一番ではないだろうか。

町内にある埼玉伝統工芸会館は、現在リニューアルのため休館中だが、小川町に隣接する東秩父村を訪れるのもよい。同村も伝統の和紙を伝える村で、村内にある「和紙の里」という施設は、「日本の田舎」という雰囲気にあふれた場所で、のんびりできる。

やまぐち真の回想録 マコトか。 Makoto or Not? Memoirs by Yamaguchi Makoto

第3回 ワールド・オリガミ・デイズ World Origami Days

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

今年もWODが近づいてきた。WODって何？ どんなこと？ と思う方も多いと思う。WOD=World Origami Daysといって、10月24日から11月11日までをWODの期間として、世界中で折り紙のイベントや、SNSなどを通じて作品発表、投稿して広く世界の人達に紹介してもらおうという世界規模を目指したイベントだ。

JOASのホームページでも特設コーナーを設けていて、どなたでも作品を投稿して見てもらうことができる。一番気軽にできる投稿は、「私のWOD」だ。投稿にはJOASのホームページからWODの投稿用紙をダウンロードし、その用紙の上にお気に入りの作品を載せて撮影し、投稿していただきたい。

WODが始まるきっかけは、2005年にOrigamiUSA(以下OUSA)が折り紙の母と思うくらい敬愛している、故・オッペンハイマーさんの誕生日を世界折り紙の日にしたいと、私のところに連絡があったことからだった。私はそこで、日本に折り紙の日がありますと答え*、OUSAと協議し、オッペンハイマーさんの誕生日の10月24日から日本の折り紙の日の11月11日の期間をWorld Origami Daysとしたりどうかと提案した。OUSAの方からは快諾をいただいて、2007年にJOASも活動を始め、2011年にはOUSAと連携した活動に着手し、現在に至っている。

初めの頃は世間に浸透しておらず、大きな動きは見られなかったが、当時サンディエゴのMingei International Museum(民藝国際博物館)で開催さ

れていた、「Origami Masterworks」(2003年9月～2005年4月開催)のキュレーターを務めたOUSAのボードメンバー、ヴィアン・コーネリアス(V'Ann Cornelius)さんが積極的に動いてくれ、徐々にではあるが活動していくことができた。

まだまだそのうねりは小さいが、今後も続けていくことで、大きなうねりになることを願っている。

※日本の折り紙の日は11月11日で、日本折紙協会発起人の一人でもある、故・長野耕平さん(当時日本折紙協会常任理事)が提案した。一辺が1、1、1で正方形という理由からで、日本折紙協会が制定している。また、この日は世界平和の日であることも長野さんの最も言いたかったところだった。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

亀井浩平

Kamei Kohe

91冊目 『折り紙キャッツ&ドッグス プレミアム』 山口真 著

“Origami Cats & Dogs Premium” by Yamaguchi Makoto

●『折り紙キャッツ&ドッグス プレミアム』発売!

2021年にソシム社より出版された『折り紙ドラゴンズ プレミアム』(山口真・著 ソシム社)は神谷哲史氏作の「エンシェントドラゴン」をはじめ名だたる作品たちを収録し、衝撃をもって迎えられた。そして2023年6月、同社よりその続編ともいえる書籍『折り紙キャッツ&ドッグス プレミアム』が発売となった。B5判、225ページに古今の名作、力作、そして後述する「バズった」作品総勢22作品の折図が収録されている。一般書籍なのでそんなに大きくない書店でも「趣味」や「手芸」の棚で見つけられることだろう。筆者のいきつけのお店ではなぜか「DIY」の棚にあった(図1)。

さて『折り紙ドラゴンズ プレミアム』が出版された2021年の暮れ、著者の山口真氏が「次は猫犬の本の話があるんだ。」とおっしゃっていた。その時はただ「ふーん」と聞き流していたが明けて暮れた2022年末、筆者のもとに通のメールが届く。拙作「フレンチブルドッグ」の新企画本への掲載許可を尋ねる内容だった。「ふーん」が「わーお」に変わりあつという間に本書刊行、さらに書評(本稿のこと)まで書かせていただくという栄誉にあずかったのであった。

●ネコは形態、イヌは品種

掲載作品を見てまず気がつくのはネコ作品とイヌ作品の傾向の違いである。ネコは「パルシャ猫」のみ品種が明言されており、他はつままれたりおすわりしたりのびをしたりおねむだったり、その「形態」を描写した作品がほとんどだ。対してイヌはコーギーとかパピ

ヨンとか「品種」を表現した作品がすべてだと言っている(図2)。神谷哲史氏作の「日本犬」のみ品種不明が見た目は明らかに柴犬である。これは創作者ご本人が明らかにされていないのと、小林弘明氏作の「柴犬」とのバッティングを避けたためと思われる。

ネコの品種の折り分けは難しいから、と言ってしまえば簡単かもしれないが、一歩進めて考えればこれはわれわれ人間への関わり方の違いが表われていると言えるのではないだろうか? ネコは人間が農耕を始めネズミの害に悩まされるようになった時期に「ネズミは獲るけど穀物には手を出さない」ことから利害が一致し「ビジネスパートナー」となって今に至る。イヌと人間の歴史はもう少し古く、狩猟の時代に野生のオオカミから「リクルート」したのがもとで、以後品種改良により様々な用途に特化され、いまのバラエティに富む品種があるのだという。つまりネコもイヌも古くからのパートナーであることは間違いないが、その出発点が大きく異なるのだ。

さてもう一度作品たちをご覧いただく。おお!「ネコは勝手気まま、イヌは人間に寄り添う」というわれらの歩みがそこに表れている! というちょっと大げさだけど、ネコとイヌの表し方の違いが際立って面白さがひととき増すのではないだろうか。

●SNSと折り紙

冒頭で「バズった」という表現をした。最近の言葉なので耳慣れない方も多いかと思うが、要するにインターネット上で突発的に大きな話題になることをそのようにいう。そして本書収録作では明確に「バズった」作品があ

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<https://origami.jp/Library/>にアクセスしてください。

り、萩原元氏作「つままれにゃんこ」がそれだ。「ツイッター」などのSNS上では「万バズ(10,000以上の好評価がつく)」し複数のインターネットメディアが記事にするなど、多方面で大きな話題となった(図3)。

かつて本書のような難易度高めの折り紙本は一般書店に並ぶものではなかった。普通に手に入る折り紙本では満足できなくなった「折り紙キッズ」たちがコンプレックス作品に挑む受け皿となる書籍が少なく、「中学生ともなれば他の趣味に行ってしまう」と言われたものだった。この潮目が変わってきたのが2015年に『端正な折り紙』(山口真・著 ナツメ社)が発売されたあたりからだと思う。当時SNS上で笹出晋司氏作の「ツル星人」(図4)が話題となっており「折り方が載っている本がある!」ということで普段折り紙を趣味としていない方面にも話題の一冊となっていたのを記憶している。これがきっかけかはわからないが、その後毎年のようにそれまででは考えられないような高難易度作品を収録した書籍が次々と出版され、一般書店に並ぶという状況が続いている。筆者はちょうどそのころから折り紙講習会を定期的に行っているが、今日に至るまで折り紙から離れてしまうキッズ(あるいは元キッズ)は皆無である。やはりこうした書籍により良作が定期供給され「折り紙離れ」が起きにくくなったのだろう。

本書がインターネット上での反応をどの程度意識して製作されたかは定かではないが、話題性とリンクしていることは確かだ。ある作品が「バズる」ことで出版社が書籍の販売に踏み切れるのであれば、今後もSNSなどで多方面に話題になり書籍発売の原動力

○亀井浩平(かめい・こうへい) = 1983年生まれ。折紙探偵団東海友の会副代表。日々平和に折り紙を楽しみたいだけなのに、最近諸方面から「痩せろ」とか「結婚しろ」と言われます。諸方面というか代表からです。



になる、というサイクルで折り紙界全体が発展していくことを祈念したい。

●筆者が選ぶベスト作品

「フレンチブルドッグ」はいったん除外して(笑)、なんといっても勝田恭平氏作「ペルシャ猫」と小松英夫氏作「アメリカンコッカースパニエル」である。筆者はかつて「カメイ・ミルキーヤン・ミッツ・カルボナーラ」という高貴な名前のペルシャ猫を飼っていたことがあり、激しく嫌がられつつ毎日なでくり回して愛でていたのでペルシャには一言ある。並たいていの造形では満足せんよ?という傲慢を粉々に打ち砕く本当に見事なお顔の造形。生き返ったんだねカルボナーラ!といった気分。折ってみて本当にため息が出たのが顔の「ウィスカーパッド(ヒゲの付け根の部分)の折り出し方である(図5)。ネコの創作にチャレンジしたことのある人ならわかると思うが、ネコの鼻からウィスカーパッド、下あごまでを完全に再現しようと思うとかなり難しい、というか「領域のコストが高い」。要するにその部分に紙が寄りすぎてしまい他の箇所を造形する際に制約が増えてしまうというデメリットがあるのだが、なん

と22.5°のカドひとつから頭部のパーツすべてがエレガントに折り出されているのには恐れ入った。「ただの紙のカド」が千変万化するまさに折り紙における部分造形の真骨頂といったところだ。余談だがカドひとつから頭部パーツがひとそろい折り出せるということはつまり、正方形用紙の四つ角のうち3つを使って「ネコベロス」ができるということだ。インターネット上ではすでにやっている方がいた。

「ペルシャ猫」が部分造形の真骨頂だとしたら「アメリカンコッカースパニエル」は全体造形の真骨頂だ。折った方は気づかれただろうか、本作には「基本形」となる形が存在しない。展開図を折った時点でほぼ出来上がりだ。造形に使用されているカド(面)は折り紙としてありふれた形のものであるが、それらが無理なく組み合わせり見事な「アメリカンコッカースパニエル像」を作り上げている。古武術のごとき基本動作からいままで食らったことのない強烈な一撃を与えられた気分だった。どれから折ろうか迷っている方はぜひこの2作から手を付けてみてほしい。どちらも折り紙の楽しいエッセンスが凝縮されたような名作だ。

●まとめ。続編求む?

SNSの隆盛により多方面から注目される折り紙作品が出てきたおかげで、かつての常識を覆し高難易度の折り紙作品が世に出やすくなっている。本書はそんな時代の変化を反映したニュータイプの折り紙本のひとつと言え



図3:「つままれにゃんこ」を取材したネットニュース



図4:「ツル星人」

よう。難易度ひかえめの折り紙作品に物足りなさを感じている方にはぜひ手に取ってもらいたい。

さて『ドラゴンズ』『キャッツ&ドッグス』ときて次は何?ともう楽しみになっている方も多いだろう。先の分析を覆してしまうようで恐縮だが、筆者は逆にイヌの様々な形態を表現した作品が見てみたい、そしてペルシャ猫以外の品種のネコ作品も見たい! おかわりとして『折り紙キャッツ&ドッグス プレミアム2』を! と勝手なことを書いて筆を置きます。



図1:表紙



図2:P.3目次



図5:「ペルシャ猫」工程129のこれがウィスカーパッドである

今号の折り図・展開図掲載作品より 解説：前川 淳 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Maekawa Jun (P.20-21)

「十角花丸」「ストライプ十角星」作：布施知子(P.4)

Decagonal Bloom, Striped Decagonal Star: Fuse Tomoko (P.4)

■ちょっと珍しい10枚組の作品。それぞれの最初の工程は、十角形の中心角の作図法としては近似だが、多数のパーツをつくるユニット折り紙では折りやすい必要もあり、この工程が「びたり」と決まっている。



「箱に入った長いしっぽの猫」作：オ・ギョンラン(P.8)

A Long-tailed Cat in a Box: Oh Kyung Ran (P.8)

■「僕をもらってください」の捨て猫と考えると切なくなるので、箱の中で遊ぶ猫(猫はせまいところが好きだ)と考えたい。箱はしっかりしたつくりなので、猫つきの小物入れにもなる。



「ネコ後ろ姿」作：神谷哲史(P.12)

A Cat from the Back: Kamiya Satoshi (P.12)

■最終工程の仕上げの手順以外に「ぐらい折り」がなく、目安のはっきりとした無理のない手順で、猫の後ろ姿が現れるのが見事だ。反対側からは見ないという意味では「四五六賽」と同じかもしれない。



「四五六賽」作：中村 楓(P.27)

Cheat Dice: Nakamura Kaede (P.27)

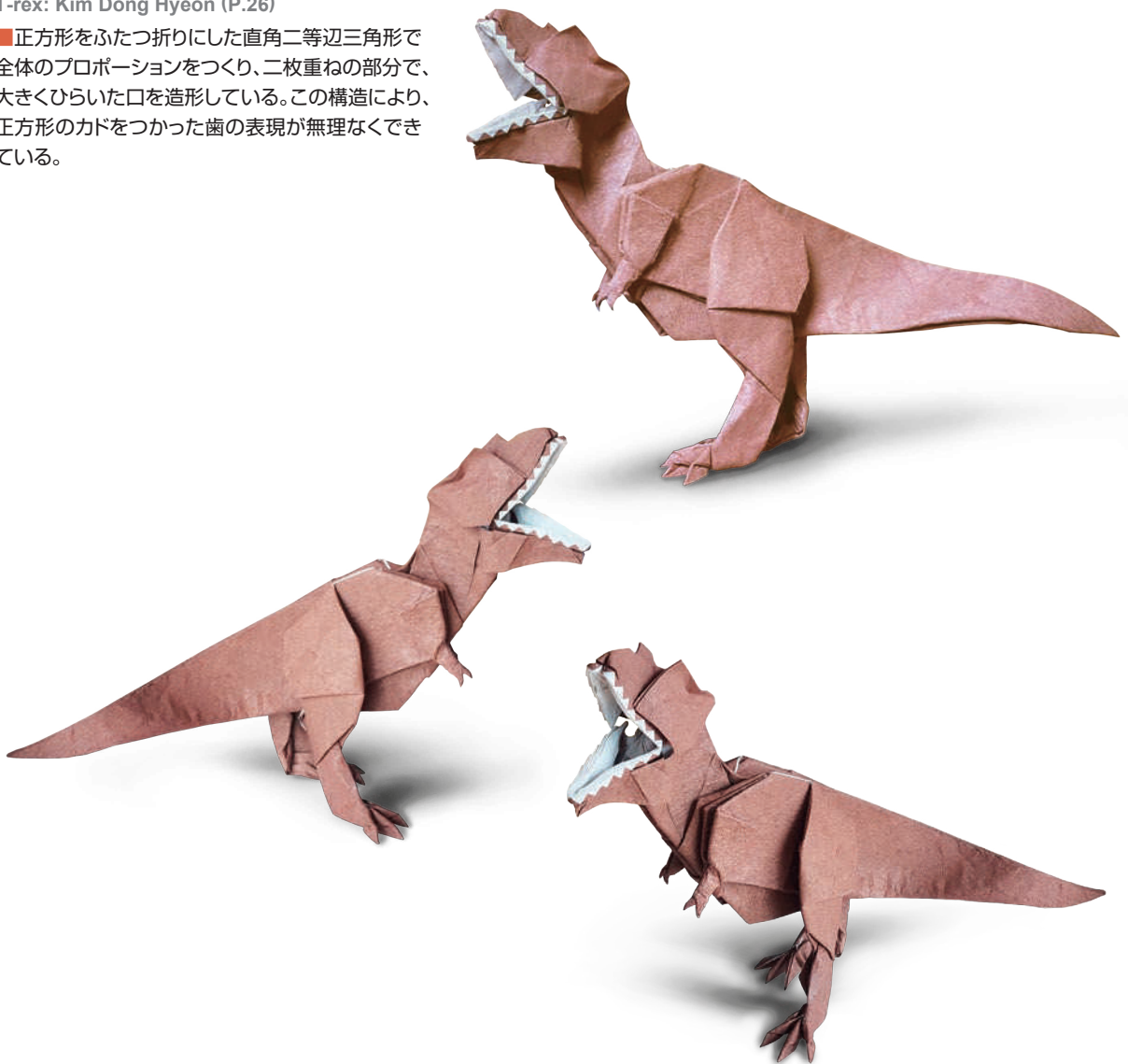
■3面だけのサイコロ。「六面のうち三面を吾にみせパスは過ぎたり粉雪のなか」(光森裕樹)という短歌を連想した。立方体や直方体の6面すべてを一瞥で見ることができない。見えないものは存在するのかと考えると、哲学的な作品(?)かも。



「ティラノサウルス」作：キム・ドンヒョン(P.26)

T-rex: Kim Dong Hyeon (P.26)

■正方形をふたつ折りにした直角二等辺三角形で全体のプロポーションをつくり、二枚重ねの部分で、大きくひらいた口を造形している。この構造により、正方形のカドをつかった歯の表現が無理なくできている。



第28回折紙探偵団コンベンション展示作品

Models Exhibited in the 28th Origami Tanteidan Convention



Card Soldiers, Queen of Hearts/Mitsuda Shigeru
(トランプ兵の折り図は本誌187号に掲載)



Chinchilla/
Mitsuda Shigeru



Rectangular Basket/
Oh Kyung Hae



Dragapult/
Kashiwamura Takuro



Great Cubicuboctahedron※
/Nagayama Kaito



Tuna/Nakamura Kaede



Koala/Yoo Tae Yong



Basilisk 2022/Katsuta Kyohei



Sitting Cat※/
Oriol Esteve



Secretary Bird/Park Jong Woo



Gorilla※/Park Jong Woo



Godzilla/Oriol Esteve

※がついている作品は、『第28回折紙探偵団
コンベンション折り図集』に折り方が掲載されています



Gorilla / Katsuzaki Yuta



Alligator / Ikuno Riku



Thunder Wheel※ / Kawamura Miyuki



Mitsubishi T-2 / Minamijima Kazuhide



Armored Samurai Warrior / Toyomura Takashi



Dragon Head / Toyomura Takashi



Do-do Skeleton / Mase Eiichiro



African Penguin / Kamiya Satoshi



Ouranosaurus / Futamata Yusuke



Eurasian Eagle Owl / Nakamura Kosuke



Ushiwakamaru / Yamamoto Taiga



Where is the Hero? / Mase Eiichiro

テーマ部門
「人物像」
1位
"Human Figure"
1st

創作折り紙人気投票
Origami Model
Popularity Contest

干支部門
「辰」
1位
Zodiac "Dragon"
1st

第28回折紙探偵団コンベンションレポート(P.41)

Report: The 28th Origami Tanteidan Convention (P.41)



◀ 会場の弥生講堂

全体会



◀ 今回のコンベンションでプロジェクターリーダーを務めた柏村卓朗氏(左)と、萩原元氏(中央)

折り紙講習



▲教室数が足りなかったため、弥生講堂のロビーにも机を並べて講習

作品展示



▲セイホクギャラリーの展示台には、この4年間に作られた作品が所狭しと並んだ

懇親会



▲弥生講堂のロビーで懇親会。料理も沢山用意された



◀ ベストジョーンソン氏デザインのTシャツを購入したメンバーで記念撮影



▲韓国3人娘

招待者



▲それぞれ講演する招待者のバク・ジョンウ氏(左)とオリオール・エステベス氏

第13回コリア折り紙コンベンションレポート(P.41)

Report: The 13th Korean Origami Convention (P.41)

招待者



▲今年の招待者は山口 真氏、萩原 元氏の2人



▲山口氏の講演

講習作品



Yoo Tae Yong



懇親会

◀ 今年は飲食が伴う懇親会は無し。その代わりにゲーム大会が夕方に催された



Jang Yong Ik



Park Jong Woo



Hagiwara Gen



▲広々とした作品展示会場



▲スタッフの皆さん、ありがとうございました!

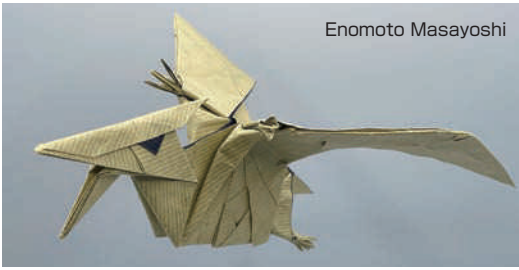
友の会例会発表作品より
From the Regional Meeting



Fukuroi Kazuki



Fukuroi Kazuki



Enomoto Masayoshi



Original Design:Katsuta Kyohei
Arrangement:Takiguchi Tadashi



展示作品



Yoo Tae Yong



Jeong Jae IL



Kim Dong Hyeon



Design:Hojyo Takashi
Fold:Han Ji Woo



Lee In Seop



Maeng Hyeong Kyu



Kim Jin Woo

第147回

ティラノサウルス

T-rex

キム・ドンヒョン

Kim Dong Hyeon

Created: 2022/11/30

Paper Size: 50x50cm

Length: 26cm



この作品の特徴は簡単な難易度、立体的な頭、歯の色反転などがあります。歯が表現された作品は多いですが、私は簡単な難易度で歯までディテールに表現される作品が欲しかったです。それと同時に、歯だけに集中してT-rexの立体的な頭と体のデザインを疎かにしないよう注意しました。

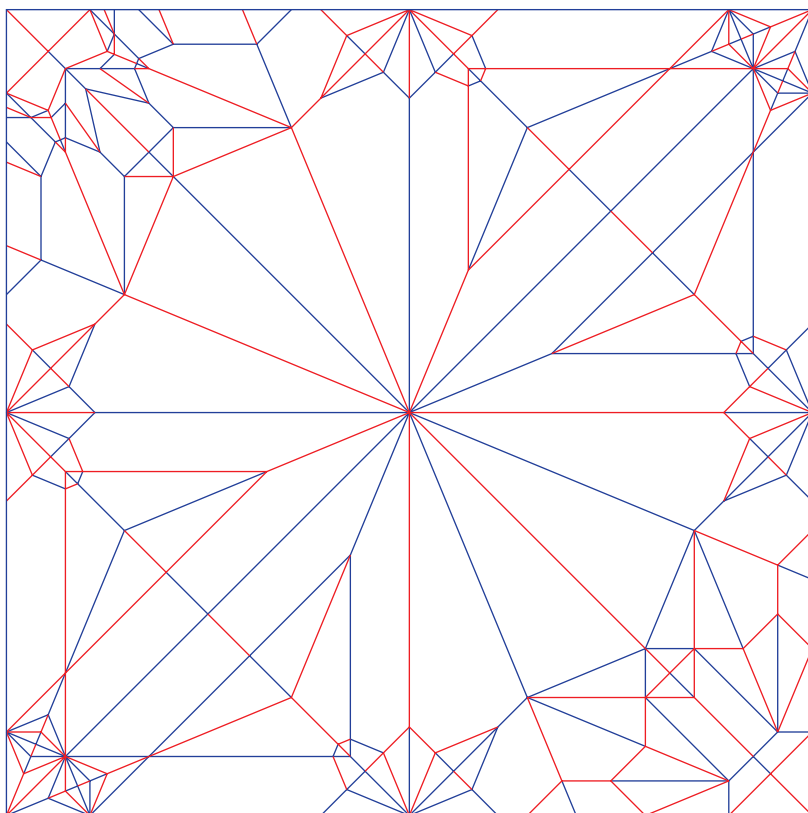
最初に思いついたのは、紙の一端から頭と上下のすべての歯が出てくると難易度が高くなるしかないということでした。この考えのおかげで、上下のあごがそれぞれ斜めに一番離れている部分から出てくる独特な構造を使うようになりました。この構造のおかげで頭に紙の面積を多く与えることができ、ディテールなデザインと簡単な難易度の両方を得ることができました。最初は小さな紙で初テストをしながら仕方なく色反転で歯を表現するようになりましたが、この感じがとげで表現した時より良く、テストに使われた歯をそのまま使うようになりました。

作品の構造は紙を対角線に半分切った時に生じる直角二等辺三角形のみを利用してT-rexを折った形ですが、頭側の紙は二重なので、これが開いてT-rexの頭と口になります。それで尻尾が中央から出てくるのですが、本来は末端の部位を中央から作るのは非効率的な場合が多いですが、今作では頭に紙がたくさん使われて重くな

り、ややもすると前に傾く可能性があるものを尻尾もやはり頭と同じ面積の紙が使われ重心がよく合う作品になりました。おかげさまで自立が可能になって満足です。

原作には50×50cmの紙を使用していましたが、作品の大きさは16×26cmくらいに小さくなります。そのため、適度な大きさに折るには45cmく

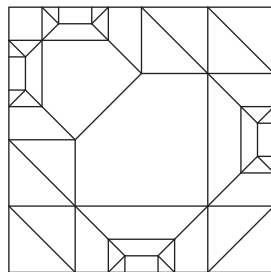
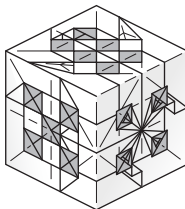
らいの大きさの紙を使うことをおすすめします。紙の坪量は40gsm程度がおすすめです。注意すべき点は、紙を対角線に半分に折って、2枚を重ねた状態で全体ステップを進めるので、紙が開かないように気をつけなければなりません。基本形まで作ったら、仕上げの段階では頭を立体的に作ってあげる過程が重要です。



しごろさい
四五六賽
Cheat dice

中村 楓
Nakamura Kaede
2023/04

15cm以上の紙で折りましょう。
ホイル紙を使うか、普通の紙を使うにしても最後に軽く糊付けしたほうがいいです。



1 図のように折り筋をつける

2 フチを中心に合わせて折り筋をつける

3 フチを中心に合わせて折り筋をつける

4 フチを折り筋に合わせて折り筋をつける

5 フチを折り筋に合わせて折り筋をつける

6 カドを中心に合わせて折り筋をつける

7 カドを○に合わせて折る

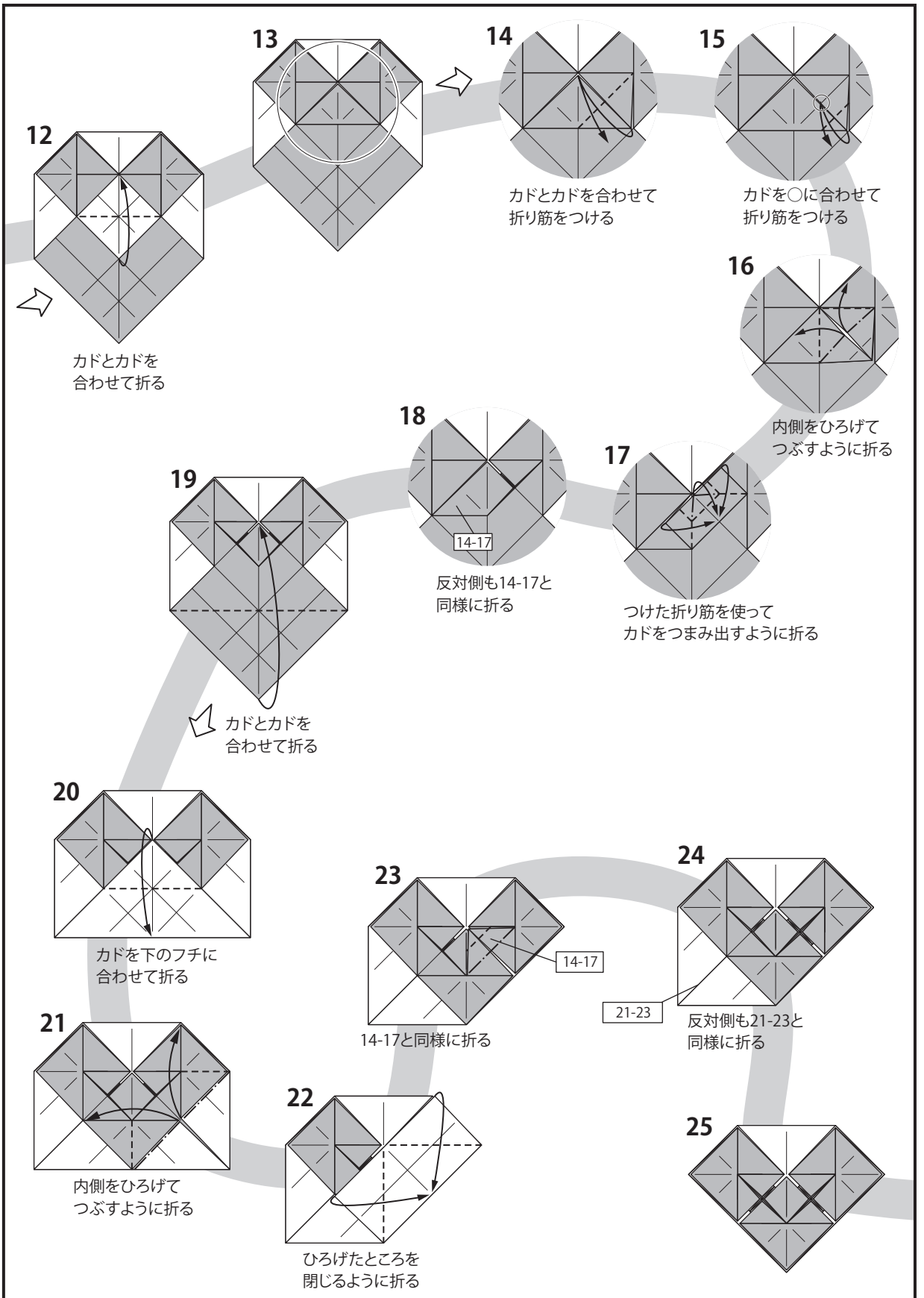
8 内側をひろげてつぶすように折る

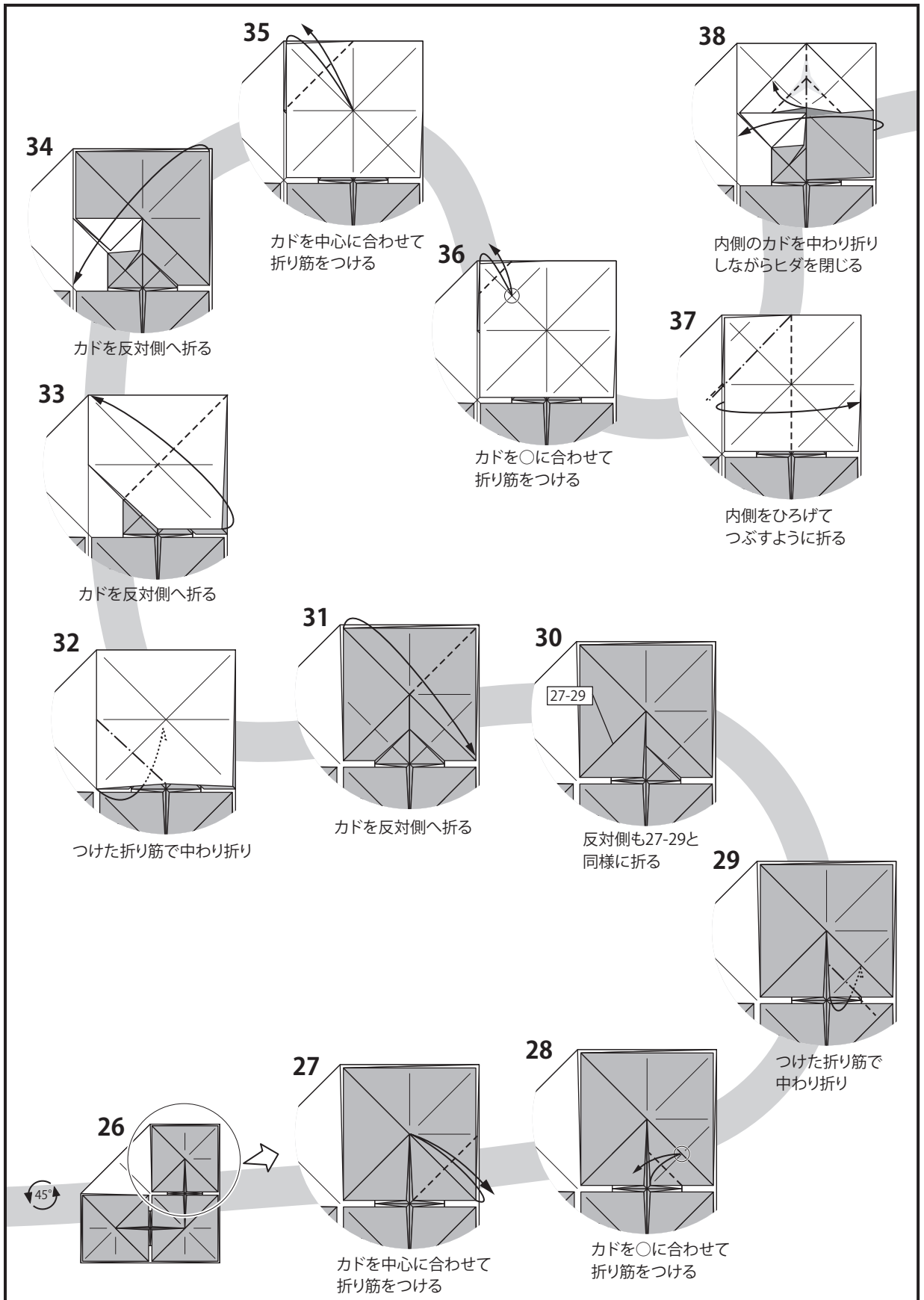
9 内側をひろげてつぶすように折る

10 カドとカドを合わせて折る

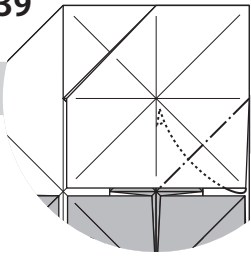
11 反対側も8-10と同様に折る

8-10



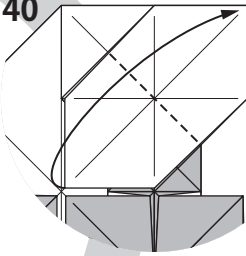


39



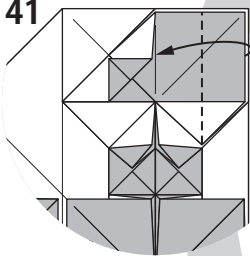
ついている折り筋で
中わり折り

40



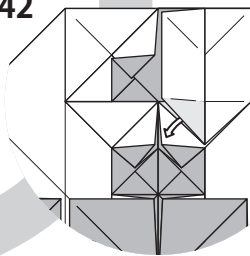
カドとカドを合わせて折る

41



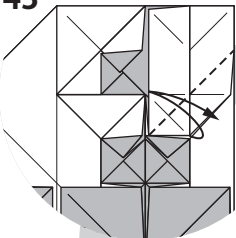
ヒダを中心に合わせて折る

42



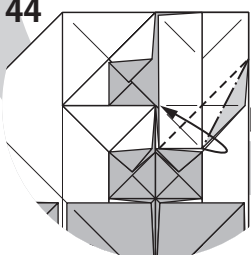
内側のヒダを引っ張り出す

43



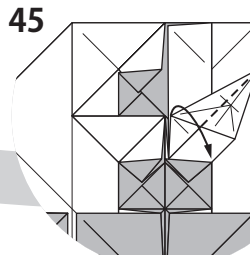
ヒダを中心に合わせて
まとめて折り筋をつける

44



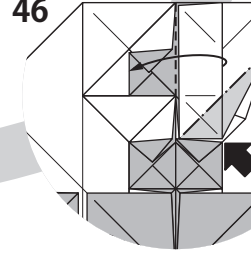
つられてくるところを
つぶしながら折る

45



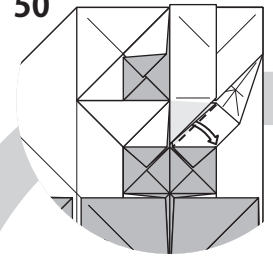
カドを反対側へ折る

46



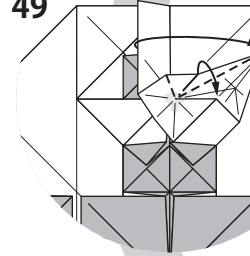
カドを内側に押し込む
(立体的になる)

50



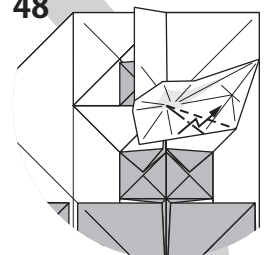
内側のヒダを
引っ張り出す

49



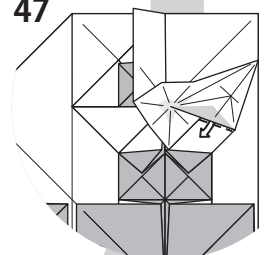
図のように折りたたみながら
ヒダを閉じる

48



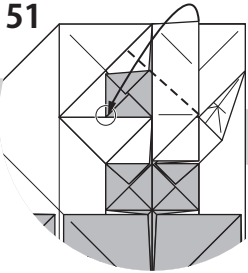
ついている折り筋で段折り

47



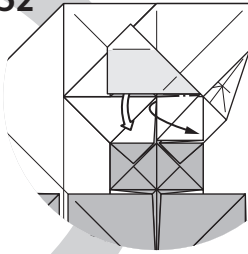
内側のヒダを引っ張り出す

51



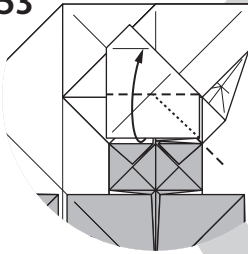
カドを○に合わせて折る

52



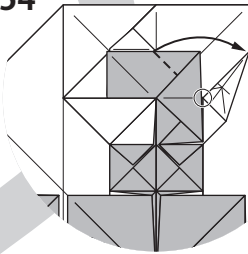
内側のヒダを引っ張り出す

53



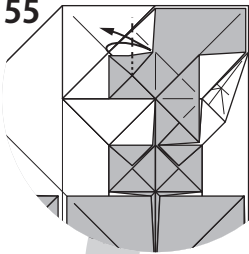
内側のヒダをひろげて
つぶすように折る

54



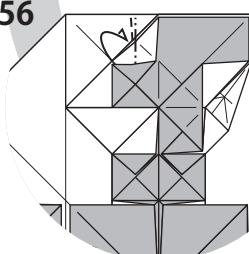
○を軸にヒダを引っ張り出す

55



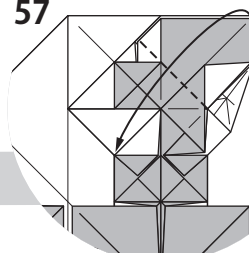
カドを折り筋に合わせて
折り筋をつける

56



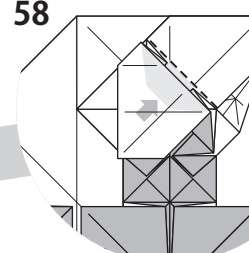
つけた折り筋で中わり折り

57



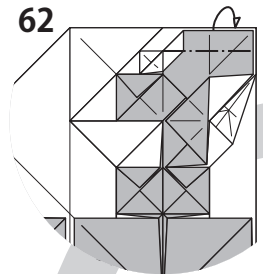
ついている折り筋で
カドを反対側に折る

58



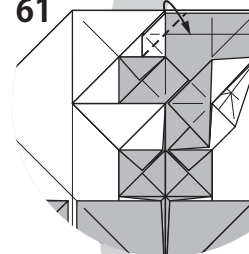
内側から押し出すように
折る (Unsink)

62



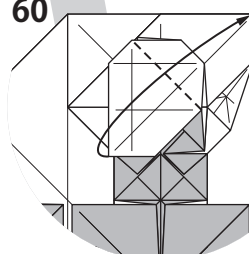
ついている折り筋で
内側に折る

61



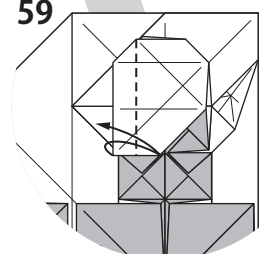
カドを折り筋に
合わせて折る

60



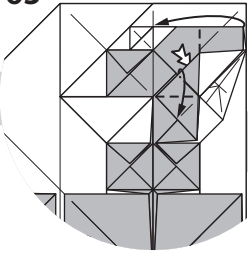
カドを反対側に折る

59



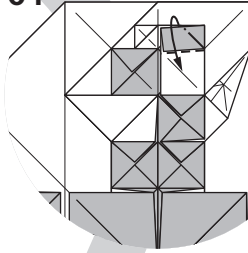
カドとカドを合わせて
折り筋をつける

63



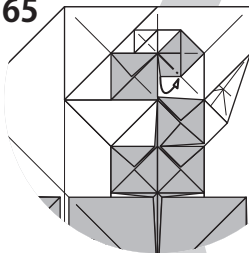
内側をひろげて
ずらしながら
つぶすように折る

64



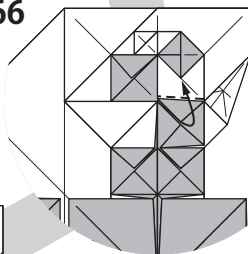
内側をひろげて
つぶすように折る

65



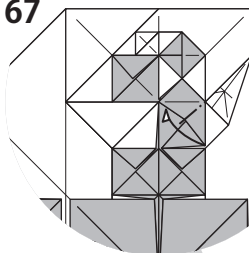
カドを内側に折り込む

66



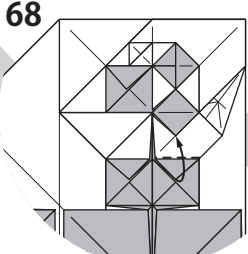
カドを上折る

67



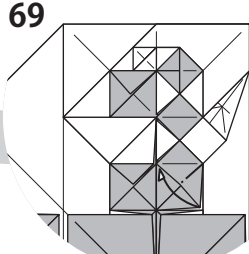
中わり折り

68



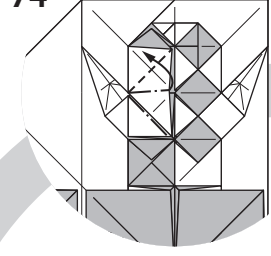
カドを上折る

69



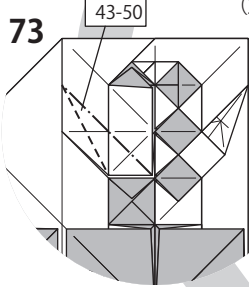
中わり折り

74



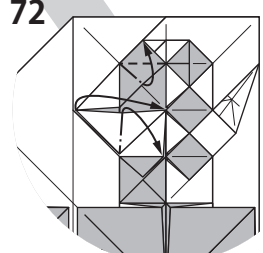
内側をひろげてずらす
(立体的になる)

73



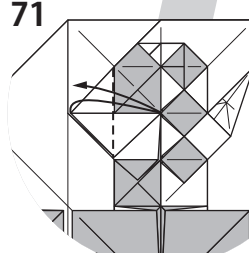
43-50と同様に折る

72



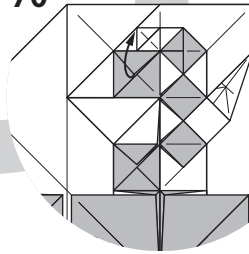
内側をひろげて
つぶすように折る

71



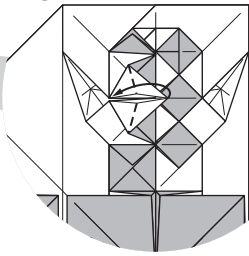
カドを中心に合わせて
折り筋をつける

70



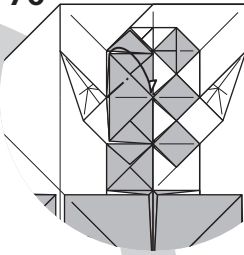
カドを上折る

75



カドをつぶすように折る

76



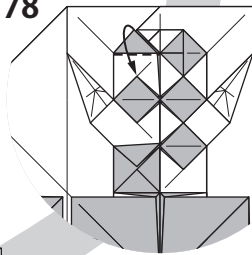
中わり折り

77



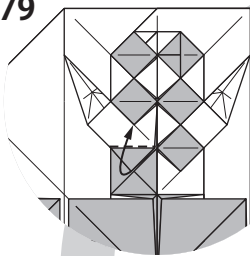
中わり折り

78



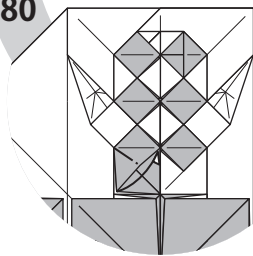
カドを下に折る

79



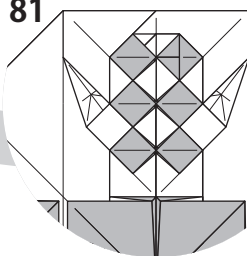
カドを上折る

80

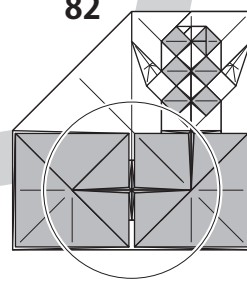


中わり折り

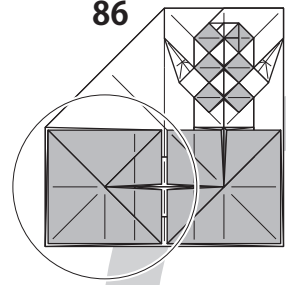
81



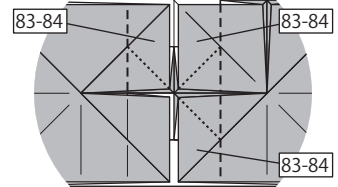
82



86

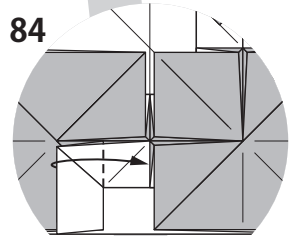


85



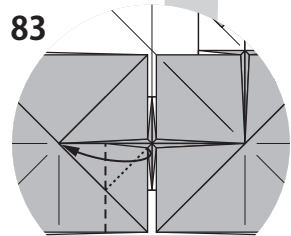
他の3か所も83-84と同様に折る

84



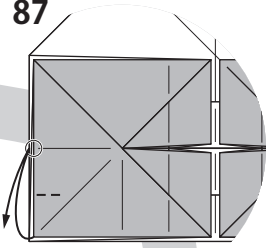
ヒダを反対側に折る

83



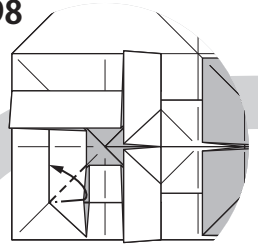
内側のヒダをひろげてつぶすように折る

87



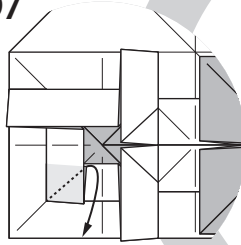
カドを○に合わせて
フチの方に少しだけ
折り筋をつける

98



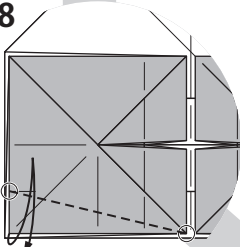
内側をひろげて
つぶすように折る

97



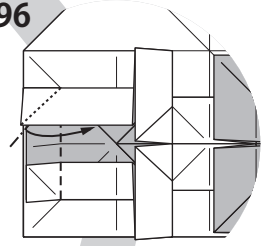
内側のカドを引っぱり出す

88



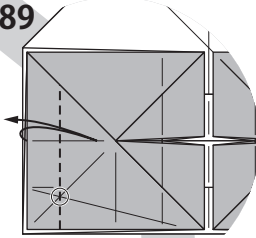
○と○を結ぶ線で
折り筋をつける

96



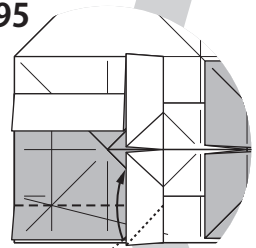
ヒダをずらすように折る

89



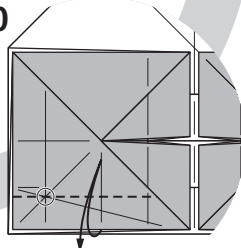
○を通る垂直な線で
折り筋をつける

95



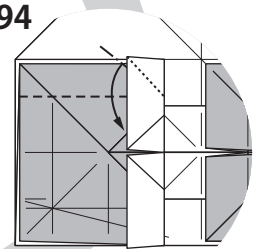
ヒダをずらすように折る
(以下87-88でつけた折り筋は
便宜上省略する)

90



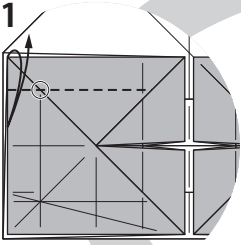
○を通る水平な線で
折り筋をつける

94



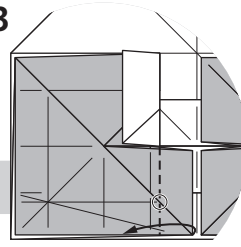
ヒダをずらすように折る

91



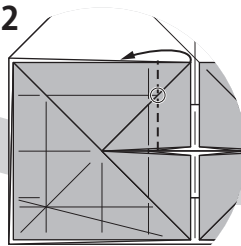
○を通る水平な線で
折り筋をつける

93



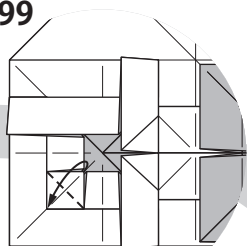
○を通る垂直な線で折る

92



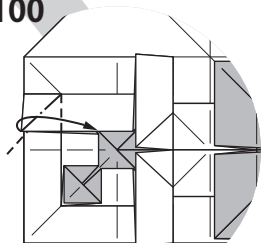
○を通る垂直な線で折る

99



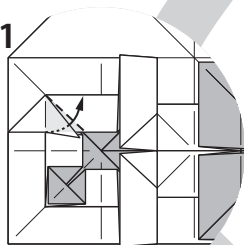
カドとカドを
合わせて折る

100



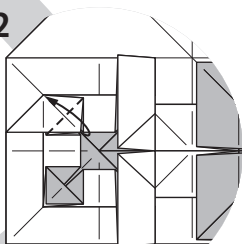
内側をひろげて
つぶすように折る

101



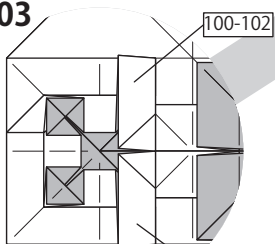
内側のヒダを引っぱり出す

102



カドとカドを合わせて折る

103

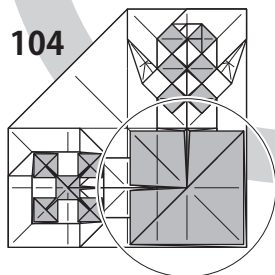


他の2か所も100-102と
同様に折る

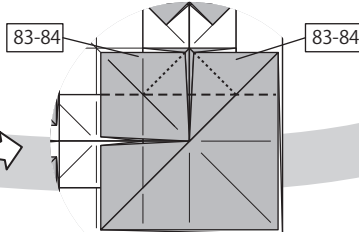
100-102

100-102

104



105

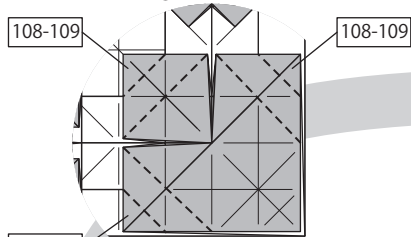


83-84と同様に折る

83-84

83-84

110



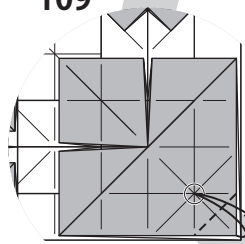
他の3か所も108-109と
同様に折り筋をつける

108-109

108-109

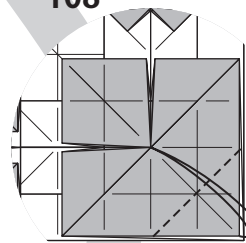
108-109

109



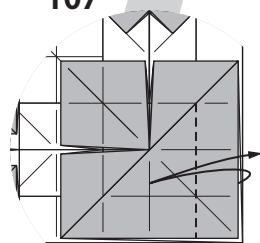
カドを○に合わせて
折り筋をつける

108



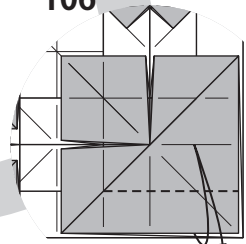
カドを中心に合わせて
折り筋をつける

107



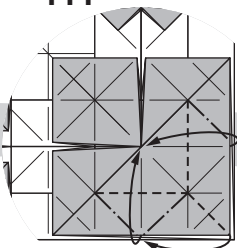
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける

106



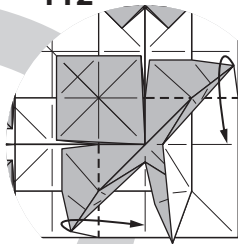
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける

111



カドをつまむように折る
(立体的になる)

112



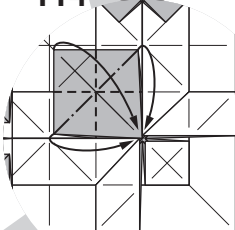
つられてくるヒダを折る

113



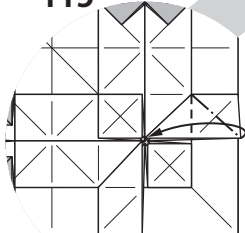
内側をひろげて
つぶすように折る

114



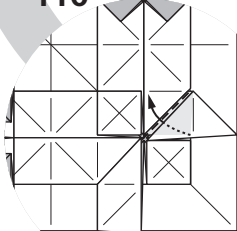
正方基本形を
作るように折る

115



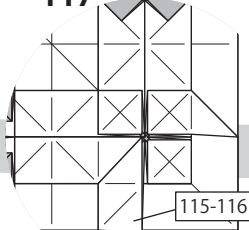
内側をひろげて
つぶすように折る

116



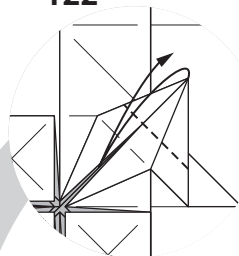
内側のヒダを引っぱり出す

117



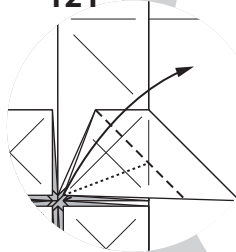
115-116と同様に折る

122



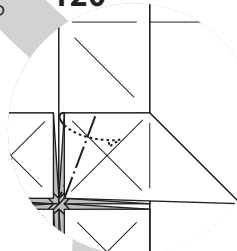
ついている折り筋で
もう一度折り筋をつける

121



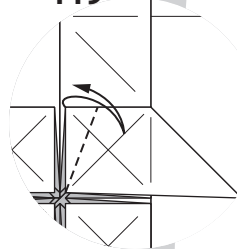
内側をひろげて
つぶすように折る

120



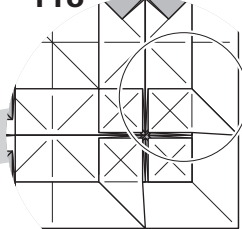
中わり折り

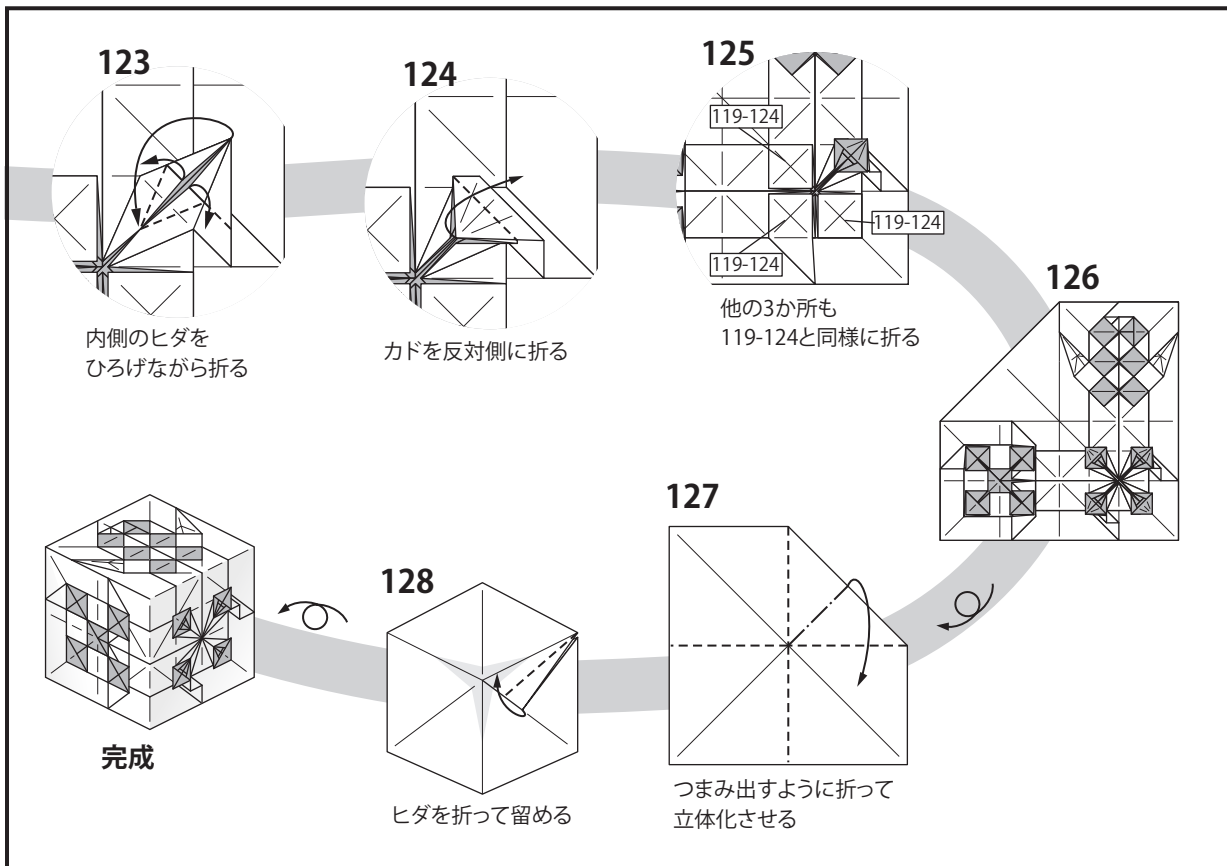
119



カドを折り筋に合わせて
折り筋をつける

118





Orisuzi ("Fold-Creases")

原点回帰のユニット折り紙

Go Back to the Basics: Modular Origami

長山海澄

Nagayama Kaito

8月に都内の小さなカフェギャラリーで個展を開催した。コンペションの前・当日も開場したこともあり(カフェのオーナーに無理を言って盆休みをずらしていただいた)、全国から沢山の折紙愛好家の皆さまにお越しいただけたことは僥倖だった。改めて感謝したい。

個展では「星」をモチーフにしたユニット折り紙にテーマを絞り、未発表作5作品を含む約20作品を展示した。

多くの方に「長山はカメレオンのイメージが強く、ユニットの展示は意外だった」と言われたが、実は私にとってユニットは原点回帰である。現代折紙に出会うきっかけがユニット折り紙だった私は、一枚折り

を主軸にしながらも細々とユニット創作を続けてきた。近年になってその立場は逆転し、今ではすっかり趣味が一枚折りのユニット作家である。というのも、これまではずっと「ユニット折り紙のアイデアはほとんど折り尽くされている」と考えていたのだが、全くそんなことはなかったのだ。多くの足跡が残る雪道で足元ばかりを見つめながらわずかに残った雪片を踏みつけ歩いてきた私は、ふと顔を上げると眼前に未踏の雪原が広がっていることに気づいた。新雪に飛び込み駆け回る犬の如し。私のX(旧ツイッター)をご覧の方はご存知かもしれないが、ここ百数十日ほど私は毎日ユニット作品を創作し、その展開図を投稿している。毎日1作品折っているほどの時間は無

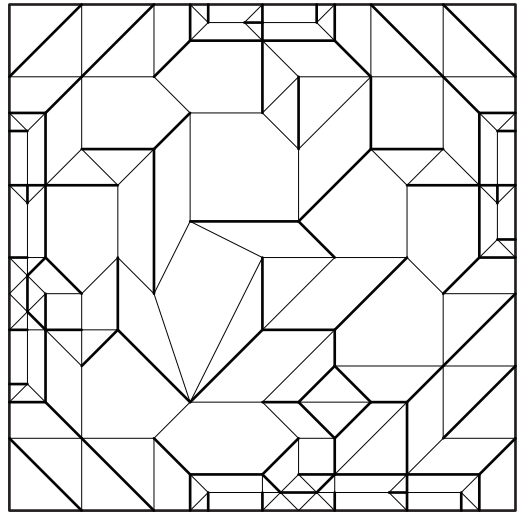
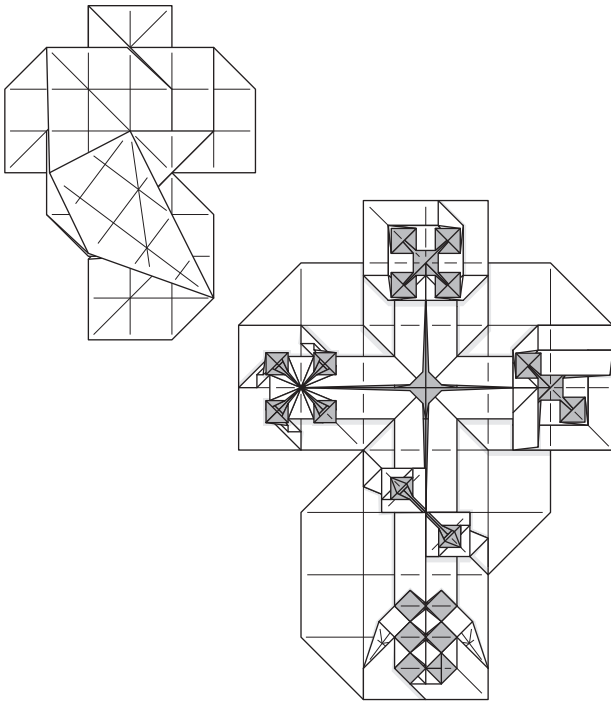
いので展開図ばかりで、完成形が見たい皆様には申し訳ないと思っている。しかし今の私にとっては、ふかふかの雪原を転がり続けるほうが道を踏み固めながら歩くよりも楽しくて仕方がないのだ。

最近の目標は今まで培ってきたユニット創作の「基礎」を一冊の著にまとめることである。未踏の雪原の一步手前までは、私よりもむしろ偉大な先人たちが積み上げてきた礎だ。それをこの辺りで一旦整理しておくことは意義深いことだと信じている。

私が今転がっている場所の景色については、またいつか、10年20年先に一步步踏み締めながら歩く心の落ち着きが生まれてから整理することにしよう。

■おまけ■

サイコロ完全版 展開図&立体化前



折り紙千夜一夜

One Thousand and One Nights of Origami

第3夜

学問のなかでの最たる美女

La plus belle des sciences

宣伝めくが、さきごろ出版された『数学にはこんなマーベラスな役立て方や楽しみ方があるという話をあの人やこの人にディープに聞いてみた本』(日本評論社、2023.09)という長い題名の本に、インタビュー記事が、また、『数学者の選ぶ「とっておきの数学」』(日本評論社、2023.08)という本に、わたしのエッセイが収録された。いずれも雑誌『数学セミナー』の記事をもとにした単行本である。

後者の本の題名の「数学者の選ぶ」だが、わたしは数学者ではないので、「本当によいのですか」と何度か編集者に確認をした。そのエッセイでは、正八面体をとりあげ、5種の正多面体の中での正八面体の存在が「代表野球チームに選ばれた守

備固めの選手」「舞踏会に紛れ込んだ庶民の娘」のようだと書いたのだが、それはその本におけるわたし自身のことのようにも見える。

数学者の定義という問題でもあるが、自分が数学者であるとの自覚はまったくない。ただ、以前のこのコラム欄のタイトルをすべて「22.5度」「0.1mm」というように数字を含むものにして、前々回からコラムを担当することになった際も、第1回と第2回のタイトルを数字を含むようにしたように、わたしは数字や図形というものが好きな数学ファンである。これは間違いない。

フランスの文学者ポール・ヴァレリーは「私は数学の専門家ではなく一人の崇拜者にすぎない。学問のなかで

の最たるこの美女にほれこんだ失意の男だ。」(『数学名言集』H.A.ヴィルチェンコ著、松野武他訳、大竹出版、1995)という言葉を残した。その心境はわからないでもない。しかし、数学の才能というのは、インドの天才数学者ラマヌジャンや、100年間証明できなかった「ポアンカレ予想」を証明したロシアの天才ペレルマンのエピソードなどを知ると、天からのギフトではあるものの、一種の呪いなのではないかと思うこともある。好きを通り越してそれに憑かれた状態である。わたしと数学、そして折り紙との関係は、単純に好きというもので、それは幸いなことなのだろう。

前川 淳 Maekawa Jun
日本折紙学会 評議員代表

File-99

オリオール・エステベ

Oriol Esteve

○Oriol Esteve=1972年生まれ、バルセロナ出身。迅速な折り紙デザインを専門としている。AEP(スペイン折り紙協会)およびOASグループ(Oriami Always Succeed)のメンバー。お気に入りのモチーフは、少し漫画っぽい動物ですが、本質的なアプローチを持ち続けています。



■折り紙を始めたきっかけは？

私が8歳くらいのとき、学校で先生が「ラ・パハリータ」(スペインの古い伝統的な作品で、日本人にとっての「折り鶴」のような象徴的存在)を見せてくれました。同時に、母は私に素敵なボートを教えてくれ、年上の子供は私にカエルの跳躍を教えてくださいました。ジャンピングフロッグオリンピックを企画したことも覚えています。8歳から40歳まで、私の折り紙は10種類にも満たず、かなり低いレベルでした。

41歳ですべてが変わりました。大好きな仕事(映画ジャーナリストでした)を失ったこと、そして折り紙を作る他の仲間を見つけたことです。

■創作を始めたのはいつ頃ですか。

新しい折り紙の友人であるエンリケ・マルティネス、ジョエル・ガルシア・モワ(そして後にマルク・ヴィゴ)とともに、私たちは折りグループに所属するだけでは満足できないことに気づきました。少し落ち込んでいたので、気分を和らげるために創造的な活動をする必要がありました。全然上手じゃない私たちでもデザインできたのはとても救われました。嬉しいのは、痛みはいつか消えますが、折り紙は残るということです。私はデザインを続けており、創作活動は続いています。

■影響を受けた作家や、好きな作家

はいらっしゃいますか？

ピーターポール・フォルシェとロマン・ディアスという二人の非常に影響力のある作家がいます。もちろん、日本人デザイナーも世界に影響力を持っています。神谷哲史、前川 淳、小松英夫だけではなく(ロマン・ディアスにも似たようなスタイルを感じている)、勝田恭平と萩原元も素晴らしいです。二人とも非常にダイナミックなスタイルを持ち、シンプルでも複雑でも、幅広い、非常に珍しいものを作り出すことができます。しかし、影響と言えば、究極的な挑戦や表現力豊かな作品を常にさらし続けるインターネットが大変革を起こしたことでしょ。

■創作におけるこだわりや、気をつけている点などあれば教えてください。

デザインで人々を驚かせたいのか、それとも魅惑したいのか？ 私は折り紙がとて好きです。皮肉なことに、展示会では複雑なものに注目が集まります。デザインする際には、「バランス」(努力と結果の間の「スイートポイント」を見つける)と「フロー」(プロセスを退屈させない)にも重点を置きます。

■OASの活動を教えてください。

OAS(Oriami Always Succeed[原文のまま])に参加したことで、デザインのスキルを非常に早く習得すること

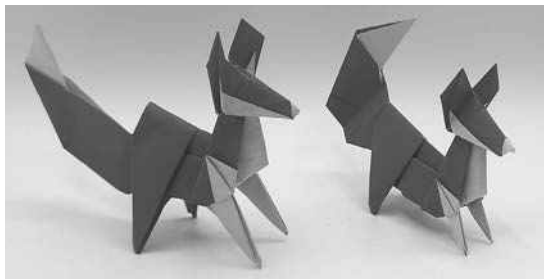
ができました。OASの主な財産は姿勢です。私たちは人々と交流するバーでデザインしました。折り紙作家の中には人前で折ることを恥ずかしいと感じている人もいますが、それを完全に变えたいと考えています。折り紙はクールです。気分はまるでロックスターです！ただし、自分のスキルをそれほど真剣に受け止めないでください。私たちは人と人の絆を好みます。折り紙の「モンティ・パイソン」のようなものかもしれません。

■日本折紙学会とはどのような関わりですか？

まず賞賛。探偵団に参加するよう誘われたことは画期的な出来事です。マラカナンでサッカーをするようなもの。同じ部屋にこれほど多くの才能を見つけることはできません。また、山口さんをとても尊敬しています。カリスマ性がありますが、とても面白い人でもあります。JOASメンバーは誰でも折り紙に大きな敬意を払っています。細部にまで気を配る様子や、良いコンベンションをどのように実現したいのかが多くを物語っています。とても感動的です。

■今後の活動目標などについて教えてください。

数か月以内に、3冊目の本『Crease Crazy』を出版する予定です。しかし、将来を目標のやるべきことリストとして捉えたくない。そのように行動すると、その間にある喜びを逃してしまう可能性があります。もちろん、探偵団コンベンションにはまた参加したいと思っています。少なくとも夏には妻の実家(岩手)を訪ねます。つまり、「さよなら」の別れではなく、むしろ「またね!」。



▲キツネ



▲ユニコーン

Rabbit Ear つまみおり Information

第13回名古屋 コンベンション参加者募集

12月2日(土)~3日(日)
名古屋芸術大学西キャンパス

第13回を迎える折紙探偵団
名古屋コンベンションを開催いたします。

スペシャルゲストは韓国
の若手作家のチャン・ヨンイ
クさんを迎え、若手の交流
を楽しんでいただきます。
皆様のご参加をお待ちし
ております。



- 日程 12月2日(土)~3日(日)
- 会場 名古屋芸術大学西キャンパス
名古屋鉄道【徳重・名古屋芸大】駅から西へ約1km、徒歩約15分
- 募集人数 200名
- 参加費
【大人】5,000円
【学生】4,500円
【親子割引】2,500円/名
※親子割引は小学生以下を対象にしており、大人の参加者1名につき2名まで。
- 申し込み方法
Web参加の有無、参加方法については10月以降に折紙探偵団東海友の会WEBサイト(http://anabas-plan.net/joas_toukai/)でお知らせ予定です。
- 親子割引について
親子割引は保護者が参加する際に、一緒に参加する小学生以下のお子様2名まで適用できます。保護者は親子でなくても構いませんが、付き添いの場合でも保護者には参加費が必要です。教室への参加は、同じ講習に参加していただくことになります。
(親子割引適用のない小学生は「学生」扱いとなります)
1日のみの参加でも同額となります。

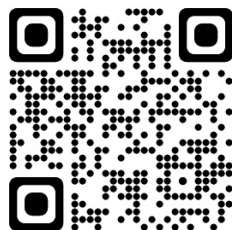
折紙用紙セットは1人分、名札と記念グッズは人数分配付となります。教室は全員受講できます。

- 懇親会 2日(土)(中学生以上)
希望者のみ
【大人】5,000円(予定)
【中、高生】3,000円(予定)
- 宿泊について
参加の皆様での確保をお願いいたします。
- 作品展示、コンテストについて
会場内にて参加者の皆様の作品展示ゾーンを設けます。また、東海友の会メンバーによる企画展示も行なう予定です。
あわせて、創作折紙(ご自身の創作作品)コンテストを実施いたします。コンベンション参加者の人気投票により最優秀賞1名優秀賞2名を決定し、賞品を贈呈させていただきますので、多数の応募をお待ちしています。何れも事前申し込みは不要ですので、皆様のご自慢の作品をぜひご持参ください。
コンテスト参加はコンベンション参加者のみとなります。
- 折紙教室講師募集

名古屋コンベンションで、講師を担当していただける方を募集します。ぜひこの機会に講師として参加してみませんか。折り紙教室では、オンライン教室(現地とのハイブリッド開催)も計画しています。オンラインからの講師募集も検討していますので、10月オープン予定の折紙探偵団東海友の会WEBサイト(http://anabas-plan.net/joas_toukai/)をご確認ください。

- 折紙指導員
日本折紙学会折紙指導員受験者の募集をいたします。指導員制度に基づく折紙指導員認定も行いますので、資格取得をご希望の方は、この機会にぜひお申込みください。

▼東海友の会10月からこちらへ
載せていきます。



◆第35回折り紙の科学・数学・教育研究集会

第35回折り紙の科学・数学・教育研究集会を行います。詳細はwebで案内します。

◇日時と概要

11月18日(土)13:00-17:30 講演(東京大学主催)、ギャラリートゥアー、ワークショップ

11月19日(日)10:00-17:00 口頭発表
◇会場:東京大学駒場キャンパス
◇参加費 現地参加:2000円、オンライン参加(11/19のみ):1000円
◇発表者公募(10月26日まで)
特別な資格は必要ありません。以下の内容をメール(osmej@origami.jp)で送付

してください。
メールの表題:第35回研究集会発表希望、メールの内容:氏名、連絡先、発表タイトル、発表概要(200文字まで)、発表希望時間(5分までの短時間発表、あるいは20分までの発表:質疑応答含む)

◆第13回韓国折り紙コンベンションレポート

萩原 元

探偵団コンベンションの翌週、8月19・20日にソウルにて開催された韓国折り紙コンベンションにゲストとして参加する機会をいただいた。なおもう一人のゲストは韓国折紙協会と長年に亘り関係を築いてきた山口真氏。韓国に着いたその日が氏の誕生日であり、大きなケーキとプレゼントで祝われている姿は両者の絆が見えるようで印象的であった。

久しぶりの現地開催とあって、会場は初日から盛り上がっていた。参加者は小中学生が多く、受け取ったばかりの折り図集を開いて折っている姿は日本のキッズ達とそっくりであった。盛大な拍手

と共に始まった開会式の後には山口氏の講演。内容は氏の折り紙との出会いから現在に至るまでを振り返るもの。午後からは折紙教室。2日間合わせて26教室が開かれ、私は2作品を講習した。久しぶりの通訳付き講習でさらに子どもも多いため時間内に終わるか心配していたが、蓋を開けてみればとてもスムーズに完成まで辿り着き、韓国折り紙界の確かな技量を感じた。

現地開催したとはいえまだコロナ禍の影響は続いており懇親会は見送りとなったが、人気だった折り紙を使った余興は交流会として行なわれた。紙飛行機

飛ばしは全員参加。1番手で飛ばした私は的にかすりもしなかった。紙鉄砲早折り大会は学生を対象に実施。小さな少年が決勝に残り会場を大いに盛り上げた。

2日目は展示場をゆっくりと見て回った。展示の多くは若者によるコンプレックス作品で、その技術力には恐れ入った。午後には若手グループORIGAMI PROによるサイン会が催され、出版されたばかりの作品集『POTENTIAL』を持ったファンが列を作った。閉会式の前には私の講演として伝承の基本形を使った創作についてを事例とともに紹介させていただいた。

最後に、滞在中大いに歓迎してくださった韓国折紙協会の皆さんとORIGAMI PROの友人達、ゲストに推薦してくださった山口真氏にこの場を借りて感謝申し上げます。



▲ORIGAMI PROのメンバー



▲山口真氏の講演



▲萩原元の講演

◆第28回折紙探偵団コンベンション開催の概要

柏村卓朗

■はじめに

まずは本コンベンションへのご参加・ご協力いただいた皆さま、有難うございました。稚拙ながら自身の役割を全うできたのは皆さまのお陰と存じます。ここにプロジェクトリーダーとして開催の概要を記します。

■経緯

西川誠司さんからコンベンションのための弥生講堂貸出の依頼を受けたのが2月のこと、それから流されるように萩原元さんと共にリーダーを拝命しました。要件は対面でのコンベンションの復活でした。コロナ禍後、コンベンションはオンラインで開催されていました。オンラインの良さ・経験を繋げていくため、ハイブリッドでの開催を決定しました。

■最初に行ったこと

まず弥生講堂使用による前提条件により、教室・備品数により約200名の人数制限参加者となること、また会場費用上昇に伴い参加費を増額することを決めました。懇親会についてはコロナ5類化後に開催を判断しました。またマガジンが告知の基本となるため、マガジン発

刊日を基準としたスケジュールリングを行いました。

■善意に基づく運営

私はコンベンションに限らずこのような大勢が参加するイベントの運営は初めてでした。折紙好きに悪い人はいないと信じていたのですが、初対面でどこまで信用できるかというのは難しい問題です。当初、私はかなりの慎重派でしたが、過去の経緯から性善説に基づき、講師募集や現地受付、人気投票、展示の方法における確認事項をある程度緩めることにしました。運営側の省力化という意味でも有効でした。

■大きな変更事項

システム改変としてオンラインでの経験から各種申込と支払いの完全オンライン化、そして参加者とのコミュニケーションをWEBサイト・メールで行うことにしました。最低限の事務局人数での事前準備と当日運営のために必須でした。

■不確実な事項と対策

不確定な要素は人と天気でした。人に関わるものはスペシャルゲストから講師の確保、人気投票作品と展示に十分な

数が集まるかなど。これらは呼びかけと代替案の用意が対策になりました。天気に関しては直前の台風7号が最大の懸念事項でした。イベント保険などが対策になると思いますが、所詮は金銭的な補填のみです。台風発生から雨天時の対応などを検討し、最終的には天に祈るより他ありませんでした。

■当日

当日始まってみればボランティアの皆さんがサクサクと動いてくださり非常に助かりました。ブランクがあっても忘れないものですね。新しく取り入れたオンライン配信は萩原さんにより万事滞りなく行うことができました。人気投票についても139名の方々に投票していただき、受け入れてもらったのではないかと考えております。

■今後

反省点は多いですが、一点挙げておきます。参加費が高い中、途中終了の講習が多かったことは改善が必要です。過去には新世代メンバーで自主的なサポートが入っていた記憶があります。講習サポートとしてのボランティアを育成してもいいかもしれません。

◆WOD 2023 10/24~11/11

WOD(ワールド・オリガミ・デイズ)

は、世界の折り紙普及に貢献したリアン・オープンハイマー氏の誕生日である10月24日から、1980年に日本で制定されたおがみの日、11月11日までの期間、世界中の多くの人々にもっと折り紙を広めていくことを目的として、様々な折り紙活動をしようというものです。OrigamiUSAとJOASでは、このWOD活動をより大きく広げるため2011年から連携して進めています。今年もJOASは3つのイベントを開催します。

【私のWOD報告】

2014年から始まったSNSを利用した折り紙作品紹介企画です。WODの期間中、あなたが折ったお気に入りの作品を

SNS(Facebookの場合はWODページ)に投稿してください。掲載する写真の撮影には「WODエントリーシート」を使います。指定のシートを日本折紙学会の公式サイトからダウンロードして、作品名、折り手の名前、作品の創作者名、在住地域(国)を記入してシートの上に作品を置いて撮影してください。記入した部分を写真に貼り込む方法でもかまいません(WODウェブサイトの説明写真参照)。ハッシュタグは#MyWODです。投稿写真は、アートミュージアム展示にも使用されます。

【アートミュージアム展示】

FacebookやX(旧Twitter)、Instagramに投稿された「私のWOD」の写真や、「折

り紙テーマ展」に応募された作品の写真を、10月24日よりWOD特設ページ(JOAS公式サイトでご案内予定)に順次掲載します。

【折り紙テーマ展】

テーマは来年の干支「卯(うさぎ)」です。投稿者本人の創作であれば、新旧は問いません。

オンライン展示:投稿方法は「私のWOD報告」と同様です。アートミュージアムの特設ページに掲載いたします。下記メールに直接写真を送っても大丈夫です。

- ・投稿用メール:wod@origami.jp
- ・JOAS公式サイト:<https://origami.jp> (お問合せフォーム)
- ・OrigamiUSAのWOD活動は下記の特設Webページをご覧ください。<http://origamiusa.org/wod>

◆各地の折紙探偵団友の会例会予定

2023年10月、11月のオンライン例会への参加には23Q3のオンラインパスポートが必要です。学会ホームページからお求めください。

東京友の会 ※オンライン例会

●10月7日(土) 14:00~16:00(13:30入室開始) / 講師:中村 楓 / 作品:マダイ / 使用用紙:24cm以上の紙を推奨

●11月4日(土) 14:00~16:00(13:30入室開始) 講師:板橋悠太郎 / 作品:かぶとむし・くわがたむし / 使用用紙:それぞれ15cm折り紙推奨



▲中村 楓 / 作品:マダイ

九州友の会 ※ハイブリッド例会

会場=Zoom&佐賀県立アバンセ / アバンセ参加費:500円、中学生以下100円(パスポート保持者は大人300円、中学生以下無料)

●10月22日(日)14:00~16:30

講師:未定 / 作品:未定

●11月26日(日)14:00~16:30

講師:未定 / 作品:未定

詳細が確定次第、九州友の会ブログに掲載されます。

<http://q-syu.squares.net/blog.cgi>

東海友の会 ※ハイブリッド例会

リアル会場=名古屋芸術大学 西キャンパス A棟402号室 / 時間:13:00~15:30 (作品講習終了時間まで延長) / リアル参加費:大人 500円、中学生以下 200円

●10月7日(土)

①講師:田中幹人 / 作品:おいなりさん

②講師:中村康佑 / 作品:お稲荷様

●11月25日(土)

①講師:川畑文昭 / 作品:ベビーカート

②講師:村木厚紀 /

作品:サイ



▲田中幹人 / おいなりさん



▲中村康佑 / お稲荷様

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●10月22日(日)13:30~17:00

会場=西宮市大学交流センター講義室2 / 講師:未定 / 作品 / 未定

●11月26日(日)13:30~17:00

会場=西宮市中央公民館601、602集会室 / 講師:未定 / 作品 / 未定

*オンライン配信はありません。事前予約制にする予定。関西友の会ブログ(origamikansai.jp)に情報を出す予定です。

東北友の会 ※折り紙は各自持参

場所:仙台市八木山市民センター

●10月15日(土)10:00~16:00

●11月19日(日)10:00~16:00

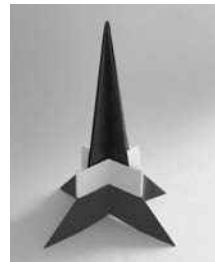
*連絡等は福島まで(k-fuku@mve.biglobe.ne.jp)

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●10月8日(日)10:00~15:00頃
オンライン例会 / 講師:高木ひろみ / 講習作品:トリコロールのエッフェル塔

●11月12日(日)10:00~15:00頃

会場=清水興津生涯学習交流館 / 参加費:大人500円、小中学生200円 / 講師:未定 / 講習作品:未定



▲トリコロールのエッフェル塔

吉野一生基金への寄付報告

第34期9月11日現在、95名の方から合計595,000円の寄付をいただいております。ご協力ありがとうございました。皆様のお陰で、海外から優秀な若手作家や著名な作家を招くことができています。ご協力くださった方々のお名前を、感謝の気持ちを込めて掲載させていただきます。(50音順、敬称略)稲吉秀尚、山中基子

日本折紙学会公式HP
<https://origami.jp/>

折紙探偵団マガジン

2023年9月25日発行 第34巻3号 通巻201号

発行所 / 日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人 / 前川 淳

編集人 / 野口マルシオ

編集人補佐 / 山口 真

編集スタッフ / 松浦英子

翻訳 / 立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.201 / Published on 25, September 2023 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Photographer: Matsuura Eiko, Origamihouse / Publisher: Maekawa Jun / Editor in Chief: Noguchi Marcio / Editorial Advisor: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第28回 折紙探偵団コンベンション 折り図集 Vol.28

好評発売中!
日本折紙学会 編 / 3,080円(税込) / 送料 440円 / B5判 / 全272頁 / 40作品収録
2023年8月に行われたコンベンションに合わせて発売。国内外より投稿された40作品の折り図を収録

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内容
北條高史折り紙作品集	北條高史 著 4,400円	国内一律 1冊 440円 (梱包込) 2~3冊=650円 4冊=1,090円 5~6冊=1,300円 ※4冊以上の発送は梱包等の都合上2つに分けての発送になります。	B5判 / 全212頁 / 11作品収録
萩原 元折り紙作品集	萩原 元 著 3,520円		B5判 / 全180頁 / 20作品収録
勝田恭平折り紙作品集	勝田恭平 著 3,520円		B5判 / 全180頁 / 13作品収録
神谷哲史折り紙作品集3	神谷哲史 著 4,400円		B5判 / 全232頁 / 15作品収録
川畑文昭折り紙作品集	川畑文昭 著 3,630円		B5判 / 全180頁 / 16作品収録
ユ・テヨン折り紙作品集	ユ・テヨン 著 3,190円		B5判 / 全180頁 / 20作品収録
クエンティン・トロリップ折り紙作品集	クエンティン・トロリップ 著 3,190円		B5判 / 全180頁 / 19作品収録
神谷哲史作品集	神谷哲史 著 4,400円		B5判 / 全228頁 / 19作品収録
神谷哲史作品集2	神谷哲史 著 4,400円		B5判 / 全232頁 / 16作品収録
折紙図鑑 昆虫II	ロバート・J・ラング 著 3,850円		B5判 / 全196頁 / 18作品収録
西川誠司作品集	西川誠司 著 1,760円		B5判 / 全196頁 / 32作品収録
面~The Mask~	布施知子 著 1,815円		B5判 / 全200頁 / 27作品収録
エリック・ジョワゼルー折り紙のマジシャン	山口 真 編著 5,280円		B5判ハードカバー / 全144頁 / カラー80頁
第27回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.27	日本折紙学会 編 2,860円		B5判 / 全272頁 / 35作品を収録
第26回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.26	日本折紙学会 編 2,640円		B5判 / 全272頁 / 47作品を収録
第25回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.25	日本折紙学会 編 2,750円		B5判 / 全304頁 / 57作品を収録
第24回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.24	日本折紙学会 編 2,750円		B5判 / 全304頁 / 61作品を収録
第23回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.23	日本折紙学会 編 2,750円		B5判 / 全304頁 / 64作品を収録
第22回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.22	日本折紙学会 編 2,750円	B5判 / 全304頁 / 61作品を収録	
第21回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.21	日本折紙学会 編 2,530円	B5判 / 全288頁 / 57作品を収録	
第20回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.20	日本折紙学会 編 2,530円	B5判 / 全288頁 / 61作品を収録	
第19回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.19	日本折紙学会 編 2,530円	B5判 / 全288頁 / 53作品を収録	
第18回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.18	日本折紙学会 編 2,420円	B5判 / 全272頁 / 48作品を収録	

商品名	価格(税込)	送料
株式会社トーヨー 単色おりがみ色見本帳61色	385円	140円

※2冊、2セット以上の送料はお問い合わせください

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<https://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を

25%引きで販売中!*

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を送らせて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <https://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail : info@origamihouse.jp
月~金 12時~15時 土・日・祝 10時~18時

昔ながらのコマを現代風にアレンジ！
海外の方へのおみやげやプレゼントにも最適です。

With Annotations and Instructions in English
全6種類 ^{まわ}かるく回すだけでよく回る!!

¥250 (税抜き)
おりがみコマ



- 【セット内容】
- プリントおりがみ 15.0×15.0cm 12枚 (12柄)
 - カラーホイール 15.0×15.0cm 6枚 (6色)
 - 折り方説明書



株式会社ト-ヨ-
<http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品と色などが多少異なる場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。
※内容・デザインは一部変更になる事があります。
本 社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12
TEL03-3882-8161 (代)
大阪支店・名古屋営業所・福岡出張所



日本折紙学会発行

About - Origami Tanteidan Digest

The objective of the Origami Tanteidan Digest is to share the articles on Origami Tanteidan magazine and provide an English summary of most (but not all) text. The numbers indicated as "Page xx" refer to the page numbers of the original articles in the magazine. While not all content is translated, it should give you an idea about what the article is about. Depending on the context, "Translator's Note" will be provided for clarity or terms that might not translate easily either because of the language or technical nature. We hope you will enjoy. Let us know if there is anything we can do to improve or any further comments. Please contact our editorial department at: editor@origami.jp

Table of contents

- (Page 7) Origami and Its Neighbors
- (Page 14) Close-up
- (Page 16) Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN
- (Page 17) Makoto or Not?
- (Page 18) From the Bookshelves of the JOAS Library
- (Page 26) Crease Pattern Challenge
- (Page 37) Orisuzi ("Fold Creases")
- (Page 38) One Thousand and One Nights of Origami
- (Page 39) Paper Folders on File
- (Page 40) Rabbit Ear Information

Translated by Marcio Noguchi

(Page 7) Origami and Its Neighbors
#120 – International Math Olympiad
By Tomoko Fuse

The 64th International Mathematics Olympiad was held in Makuhari in July of this year, where high school students from all over the world gathered to solve difficult problems. I was introduced by Origami House for an opportunity to teach Modular Origami during the break time of that event.

The organizers told us that they wanted everyone to work together to create something big, one on a wall and one for a three-dimensional object. The venue would be an open classroom in the recreation room. All classes would be conducted in English.

It started with model selection. As a result of several proposals, it was decided that the wall would be a set of "Rice Balls" and "Japanese wild parsley" folded from equilateral triangle sheets and connected to gaskets (see "Connecting Motifs Made with Origami" by PHP Publishing). The main color was blue, which is reminiscent of the Makuhari sea. The three-dimensional piece was a model by Kunihiko Kasahara that connects cubes called "ribbons" with joint materials (see "Growing Solids" by Chikuma Shobo Publishing). This was a very old model. Kasahara kindly consented to the use of his work.

He prepared a sample and went to the actual performance. In the center of the venue, there was a model by [Marty] Demaine and his son [Erik], and a video was played. There were other corners for origami, games, and puzzles, and loads of sweets, making it

a place for students to soothe their tired minds and bodies.

I was nervous at first, but the visiting students were polite and had "pure" eyes, and I had fun making origami. Other than us staff, there were hardly any Japanese people at the venue, so it was hard to believe that this was Japan.

I thought it would be difficult to assemble a modular solid with multiple people, and it turned out to be the case, but before I knew it, one enthusiastic person from New Zealand was centralizing the work. I was at the venue for two days, and I was able to see a nice collection of large cubes created.

The gaskets on the wall were drawn in thin lines by the designer on a board measuring approximately 5 x 1.8 meters, and the students were free to paste their folded pieces onto them. As the wall filled in, it became more impressive and beautiful.

The president of the venue, whose head office is located in Hong Kong, liked this wall and said that once it was finished, he would take it to his office in Hong Kong and display it.

We wish all the best for the future of the students who participated in the course.

(Page 14) Close-up
An Origami Crane with a Laparoscope: A
Challenge by a Neurosurgeon
By Yutaro Itabashi

Yutaro Itabashi = Born in Gunma Prefecture in 1993.

In addition to working as a neurosurgeon, he also volunteers and presents his work as an origami artist. He has been a doctor for 5 years and an origami instructor for 11 years.

Instagram: @bacillus_origamiX: Bacillus_anth

◆ Introduction

In 2023, I will be celebrating my fifth-year anniversary as a doctor. To be frank, I am too old to be called a novice and too young to be called experienced; I am still an inexperienced person with neither a specialization nor degree. On the other hand, it had been 11 years since I was certified as an origami instructor but considering the number of creations and lack of experience drawing origami diagrams, I am still in the process of training as an origami artist.

Then, in February 2023, I watched a TV program and was shocked. A competition was held in which surgeons used laparoscopic tools to make origami cranes. From what I hear, my friend who is a surgeon had received an invitation to participate. It is an unexpected encounter between medicine and origami. I am usually an origami artist, but this time I will be approaching the world of laparoscopic origami cranes from the perspective of a neurosurgeon.

◆ What exactly is laparoscopy?

A laparoscope is a surgical camera that is inserted through a hole (port) of about 1 cm in diameter in the abdomen. Laparoscopic surgery involves inserting forceps or an electric scalpel through another hole to perform surgeries such as removing organs. Although it is different from a “gastrointestinal endoscope,” commonly known as a gastroscope or a colon camera, the idea of looking into the interior of the body with a camera is the same. The clinical departments that perform laparoscopic surgery and the organs that are treated are as follows.

Gastrointestinal surgery: gallbladder, stomach, large intestine, etc.

Obstetrics and gynecology: uterus, ovaries, etc.

Urology: kidney, bladder, etc.

Previously, surgery required a large incision to be made in the abdomen, but laparoscopic surgery has the advantage of requiring a smaller incision. On the other hand, performing surgery while manually operating a long, thin arm requires skill, and the field of vision and tools are limited, which can lead to unexpected complications. For this reason, surgeons train daily using specialized tools (Figures 1 and 2).

As a side note, the neurosurgery department to which I belong also has something called neuroendoscopy. A small hole is made in the skull and is used to remove tumors from the ventricles (spaces

inside the brain) or to operate on the pituitary gland (an organ that produces hormones) through the nostrils. I have performed several cases of endoscopic surgery myself, but it required a different technique than opening the skull and operating directly on the brain.

Surgeons are required to have a high level of skill, but with the rise of endoscopic (laparoscopic) surgery, surgeries that previously required large incisions can now be performed with small incisions and in a short time. Medical innovations are benefiting both patients and doctors.

◆ Hand of God Challenge

The development of medicine is progressing rapidly, but there are some doctors who have used origami cranes to improve their laparoscopic surgery techniques. The “Hand of God Challenge”, in which people make origami cranes using a laparoscope and compete to see how fast and beautiful they are, has gradually expanded its reach on YouTube and Facebook, and a national competition was reportedly held in December 2022 (February 2023). The TV program covered this tournament. At the competition, surgeons from all over Japan who work with laparoscopes in various fields gathered to compete to show off their skills.

If you look at the video, you can see that an origami crane is formed from a 7.5cm square origami paper using a very smooth arm. In the 2022 competition, the winning doctor completed the origami crane in 4 minutes and 55 seconds. It may seem easy at first glance but by the challenges faced by some of the participants, it is clearly not that easy.

◆ What do doctors in the field think?

I asked my friends who are gastrointestinal surgeons, obstetricians and gynecologists, and urologists who work in Gunma [prefecture] like me about this challenge.

Urologist Dr. S: It's difficult to fold an origami crane with two arms. Some doctors use another arm for traction. Da Vinci (surgical robot) is now popular, and it may be even easier to perform surgery because it has joints.

Dr. T, Obstetrician and Gynecologist: Although it is very difficult to practice folding origami cranes with forceps, it is very difficult to fold them neatly, but it is thought to be useful in improving operability during actual surgery. Origami paper also tears easily, so it can become a practice for handling the tissue in a gentle manner.

Gastrointestinal Surgeon Dr. M: I knew there was a competition to make origami cranes using a laparoscope, but I think it would be difficult to actually

fold them. This hospital has a practice kit, so why not give it a try if you like?

And so, that is how the neurosurgeon [in other words, I] decided to take on the challenge of making laparoscopic origami cranes. By the way, I only had a brief experience using a laparoscope during my student training at university. The laparoscopic paper crane that my surgeon friends all agreed to be difficult, but will it ever be completed?

◆ **The Neurosurgeon takes on the Hand of God Challenge!**

I setup the origami paper in the hospital's laparoscopic practice kit "Dry Box" and insert the laparoscopic arm. The 7.5 cm origami paper looked even bigger because it was being viewed through the camera and because of the tension (Fig. 3).

It was quite challenging. First, I have a hard time grasping the paper. Even if I could finally grasp the paper with my arm, when I tried to fold it into a triangle, the edges just wouldn't line up. I was keenly aware of how delicate the movements of human fingers are. At the same time, I was humbled by the surgeon who was able to perform this operation so effortlessly.

My hand was starting to hurt from holding the endoscope, but I managed to finish the petal fold. At that point, 30 minutes had passed. I thought there was only a little more to go, but this was where things got even more difficult. No matter how I tried, I couldn't do the inside reverse-fold, which normally would have been trivial. I tearfully unfold it and fold it into stages, but the neck doesn't come out properly because of the accumulated misalignment.

After an hour of work, the tattered origami crane was finally completed (Figure 4). It's embarrassing to publish it in this magazine, but I'm going to shamelessly publish it so you can see how difficult the Hand of God Challenge is.

In the past, I have tried blindfolded origami cranes, one-handed origami cranes, and chopstick origami cranes, but I found that laparoscopic origami cranes are incomparably more difficult. A surgeon who can complete this in five minutes is truly the "hand of God."

◆ **After completing the challenge**

"Don't think of it as origami, think of it as a patient!" are the words of the organizers of the Hand of God Challenge. In fact, this challenge encourages you to make it all the way to the end, no matter how hard you struggle. This is because the actual surgery cannot be abandoned midway through.

In the first place, surgeons take on the "Hand of God Challenge" not as an acrobatic feat, but to further improve their own skills. In any surgery, you first learn

by observing, then you learn by assisting, and only after being approved by the surgeon, you are entrusted with a surgery. Laparoscopic surgery is not something that can be entrusted easily. Those with little experience will have to make up for it through practice. Being able to make origami cranes quickly and beautifully will lead to the completion of minimally invasive and short surgery within the patient's body.

I also tried making laparoscopic origami cranes, thinking it was a surgery. Although the results were a dismal, I managed to complete the task. In the world of laparoscopic origami cranes, there are many doctors who are far more skilled. As someone involved in the medical field, I reaffirmed the importance of working hard every day to hone my skills.

◆ **In Conclusion**

As a neurosurgeon, I regret not being able to write an article as a true challenger for this project. There may be doctors and medical students among the JOAS members and convention attendees. If you are interested in this project, or if you have a laparoscopic practice kit at work, please try making laparoscopic origami cranes. I would be happy if this article and project inspired many people to aim for a surgical department. I will continue to train so that I can one day participate in the Hand of God Challenge using neuroendoscopy.

List of Figures:

Figure 1: Endoscope arm. From the top: forceps, scissors, and needle holder. Each one is about 30cm long.

Figure 2: Laparoscopic practice kit "dry box". Insert two laparoscopic arms through the holes in the dome. The camera in the front projects the image inside onto the screen.

Figure 3: Laparoscopic monitor. In the back are unfinished origami cranes and practice needles (for medical use).

Figure 4: Origami Crane somehow completed.

(Page 16) Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

This section will explore a wide range of topics related to origami. Let us know of any questions, and additional information from readers. Please, feel free contact us via email webman@origami.gr.jp.

#67 – Origami Sampo along the Tobu-Tojo Line By Jun Maekawa

Jun Maekawa = This is the return of the Origami Sampo ("Walk") series that was previously serialized in this magazine.

The self-introduction of a local idol from Saitama Prefecture who appears in the TV drama series "Ama-chan", which is attracting attention even when it is rebroadcast, is "There are no beaches, but there are dreams. Let's ride the Tobu Tojo Line again today, full of energy." The Tobu Tojo Line may not appeal to people outside of the Kanto area, but it has a total length of approximately 75 km, starting from Ikebukuro and connecting to Yorii Town in northwestern Saitama Prefecture, providing commuting from the midwestern part of Saitama Prefecture to the Tokyo metropolitan area. This route is used for commuting to school too. Kawagoe, which is located roughly in the middle of Ikebukuro and Yorii, is a tourist destination known as "Little Edo", with its traditional townscape, so many people probably know about it. I have also heard that there is a station on the same line with the exact same name as the station in the [Tokyo] government district called Kasumigaseki, and that some people sometimes end up there by mistake and are stunned by the peaceful scenery in front of the station. In fact, there are several origami-related attractions on the Tobu Tojo Line, so let's present them here.

◆ Tsurugashima

The first station is Tsurugashima. The station building, just two stations away from Kawagoe, was renovated a few years ago, and at that time it became a station filled with origami crane designs. Origami cranes are drawn on the walls, and a diagram with the steps of folding origami cranes is also drawn on the message board. The reason for the origami crane is basically because of the name Tsurugashima ("Crane Island").

By the way, the city's mascot is a dragon called "Tsurugon". Its name comes from the tradition of a rain-making festival in which people paraded carrying a snake dragon weighing about 3 tons in Suneori city.

Decades ago, in the "Origami Tanteidan Shimbun" [newsletter], it was mentioned that there was a place name Haneori in Tsurugashima City, Saitama Prefecture, and it was written as "Tsurugashima City Haneori. Abbreviated to Tsuruga Haneori. Further abbreviated to Tsuruori. Turned upside down to mean origami crane." I once wrote, "This is the name of a place where origami cranes are completed in three steps," and before I had seen it for a while, Tsurugashima Station had truly become a magnificent origami crane station. The place name Haneori seems to be a combination of the names of Asaba and the adjacent place named Suneori

mentioned earlier.

Furthermore, in front of Tsuruse Station, which is closer to Ikebukuro than Kawagoe, there is a building called Tsuruse Ekimae Market, which has a full Showa atmosphere, and the signboard there also has origami cranes. It disappeared due to redevelopment. Incidentally, cranes in place names are often place names derived from rivers or waterways, as in some place names or people's names that are written as "sui-ryu" and read as tsuru, rather than the bird crane.

◆ Musashi Arashiyama

Next station, Musashi Arashiyama. It is the nearest station to a tourist destination known for its beauty, which was named so in the early Showa era due to its scenery resembling Kyoto's Arashiyama. The station is located next to Ogawamachi Station, one of the major stations on the Tojo Line. One day, as I returned from a short trip to enjoy Ogawa-machi's famous dish "Chushichi Meshi" and to look for local Japanese paper, I was checking a map of the area and looking back on my trip when I exclaimed, "Ah." There was a park called "Origami Park" near Musashi-Arashiyama Station. What on earth is this? Below is what I found out after some research.

The park was created in 2017 by a site donation by the headquarters of a transportation company called Asahi Logistics to the local community. But why Origami Park? Looking at the images on the internet, there is nothing particularly origami-like about it. Upon further investigation, I found the following good story:

Around 1990, the company's president at the time decided to brighten the design of its trucks to improve the company's image. "When a large tour bus arrives, the children gather all at once. However, when a large truck arrives, the children run away all at once. This seemed to be distressing for the company president. The company adopted an "origami" design for its trucks, consisting of colorful squares on a white background. The design, which the company calls "Origami" color, has become a symbol of the company's CI (corporate identity). Later, when offering the former headquarters site to the local community, the name of the park was changed to "Origami Park." Although I didn't hear it directly, he must have sensed kindness in the sound of the word "origami." Origami Park also has a loop path and mock traffic lights, making it a facility for learning about traffic safety.

◆ Ogawamachi

Ogawamachi is known as a paper town that supported the supply of paper to Edo and is a municipality that has made washi paper its identity. Kawagoe is known as the "little" Edo, but "Ogawamachi"

is also called Musashi's little Kyoto. It is a fun town to walk around. The town's library is stocked with books related to washi, and there is also a shelf with samples where you can check out actual washi. And I love Ogawa's washi origami paper. Unless you need particularly thin paper, I think Ogawa's paper is the best for daily use washi origami paper with the same color on both sides.

The Saitama Traditional Crafts Center in the town is currently closed for renovations, but it is also a good idea to visit Higashichichibu Village, which is adjacent to Ogawa-machi. The village is also a village where traditional Japanese paper is passed down, and the facility called "Washi no Sato" within the village is a relaxing place filled with the atmosphere of "Japanese countryside."

List of Figures:

Figure 1 – Tobu Tojo Line

Figure 2 – Tsurugashima Station signboard and premises

Figure 3 – Asahi Logistics' "Origami" Color Origami Park (Arashiyama Town)

(Page 17) Makoto or Not? Memoirs by Makoto Yamaguchi

Part 3 – World Origami Days

WOD is approaching again this year.

What is WOD? What kind of thing? I think many people ask such questions. WOD=World Origami Days, or WOD for short, is a period from October 24th to November 11th, during which origami events will be held all over the world, and origami models will be presented and posted on channels, such as social media, to be presented to a wide range of people around the world. This is an event aimed at a global scale.

A special section has been set up on the JOAS homepage, where anyone can submit their models and have it viewed [publicly]. The easiest way to post is through "My WOD." To submit your model, simply download the WOD submission form from the JOAS homepage, place your favorite model on the form, take a photo, and submit.

WOD started in 2005.

In 2010, OrigamiUSA (hereinafter referred to as OUSA) contacted me to celebrate the birthday of the late [Lilian] Oppenheimer, whom we all admire so much that we consider to be the "mother of origami." I replied that there was already an Origami Day [established] in Japan(*), and after consulting with OUSA, I suggested

to designate the period from October 24th, [Lilian] Oppenheimer's birthday, to November 11th, Japan's Origami Day, as World Origami Days. With OUSA's agreement, JOAS began its activities in 2007, and in 2011, it began activities in collaboration with OUSA, which have continued to this day.

At the beginning, it was not widely known and there was no major movement, but the "Origami Masterworks" (September 2003 - 2005) was held at the Mingei International Museum in San Diego at the time. OUSA board member V'Ann Cornelius, who served as the curator for the event (held in April 2017), took an active role, and we were able to gradually expand our activities.

Although this wave is still small, we hope that by continuing to do so, it will become a big wave.

(*)Japan's Origami Day is November 11th and was proposed by the late Kohei Nagano (then executive director of the Nippon Origami Association - NOA), one of the founders of the Nippon Origami Association. This is because of the symbology a square with sides 1, 1, 1, 1 (or 11/11), and was established by Nippon Origami Association. What Mr. Nagano wanted to say most was that this day is the World Peace Day.

(Page 18) From the Bookshelves of the JOAS Library Book #91: "Origami Cats & Dogs Premium" by Makoto Yamaguchi Article by Kohe Kamei

Kohe Kamei = Born in 1983. Vice-representative of the Origami Tanteidan Tokai Tomo-no-kai Association. All he wants to do is enjoy origami in peace every day, but lately he've been told by various people to "lose weight" and "get married." Well, "from various people", he means "from the representative."

● "Origami Cats & Dogs Premium" released!

"Origami Dragons Premium" (by Makoto Yamaguchi), published by Socim-sha in 2021, was greeted with a shock as it included famous works such as "Ancient Dragon" by Satoshi Kamiya. In June 2023, the company released a book that could be called a sequel, "Origami Cats & Dogs Premium." B5 size, 225 pages, it contains illustrations of 22 masterpieces, and "buzz" models from all over the world, which will be described later [in this article]. Since it is a general book, you can probably find it in the "hobby" or "handicrafts" shelves of even small bookstores. For some reason, my favorite store had it on the "DIY" shelf (Figure 1).

Now, at the end of 2021, when "Origami Dragons Premium" was published, the author, Makoto

Yamaguchi, said, "I'm having conversation about a book on Cats and Dogs next." At that time, I just ignored it, but at the end of 2022, I received an email. He was asking for permission to include my work "French Bulldog" in a new project book. My "Hmm" turned into a "Wow" in the blink of an eye, and I had the honor of publishing [a model in] this book and even writing a book review (about this article).

● **Cat is a form, dog is a breed**

The first thing you notice when looking at the published models is the difference in trends between cat works and dog ones. Only the "Persian cat" is clearly stated as a breed of cat, and most of the works depict the "form" of cats, such as being pinched, sitting, stretching, or sleeping. On the other hand, for dogs, it can be said that all the models express "breeds" such as Corgis and Papillons (Figure 2). Only the "Japanese dog" by Satoshi Kamiya is of unknown breed, but it clearly looks like a Shiba Inu. Although not disclosed by the author himself, it looks like it avoided competing with Hiroaki Kobayashi's "Shiba Inu".

It may be easy to say that cat breeds are difficult to distinguish, but if we take it one step further, wouldn't it be possible to say that this reflects the differences in how they interact with us, humans? At a time when humans started farming and began to suffer from the damage caused by rats, cats "caught rats but didn't touch grain", so their interests coincided and they became "business partners", and they have remained together to this day. The history of dogs and humans goes back a little further, with dogs being "recruited" from wild wolves during the hunting era. Since then, through breeding, they have been specialized for various purposes, resulting in the wide variety of breeds we have today. In other words, cats and dogs are certainly long-standing partners, but their starting points were very different.

Now, let's look at the works once again. Oh! Our philosophy of "cats being selfish and dogs being close to humans" is reflected in them! That's a bit of an exaggeration, but I think the difference in how cats and dogs are expressed stands out and makes it even more interesting.

● **Social media and origami**

At the beginning, I used the expression "buzz." It's a recent term, so many people may be unfamiliar with it, but in short, it refers to something that suddenly becomes a big topic on the Internet. Among the models included in this book, there is one that clearly went viral, and that is Hagiwara Gen's "Tsumamare Nyanko". It became a hot topic in many areas, with "10,000 buzz (more than 10,000 positive reviews)" on

social media such as Twitter, and multiple Internet media wrote about it (Figure 3).

In the past, difficult origami books like this one were not available in general bookstores. There were few books available for "origami kids," who were no longer satisfied with commonly available origami books, to try their hand at complex works, and it was said that "by the time they reach junior high school, they move on to other hobbies." I think this tide began to change in 2015, when "Beauty of Origami" (written by Makoto Yamaguchi, published by Natsume Publishing) was released. At that time, Shinji Sasade's "Tsuru Alien" (Fig. 4) was a hot topic on social media, and even people who didn't usually do origami as a hobby were talking about it, with people saying, "There's a book with instructions on how to fold it!" I don't know if this was the trigger, but every year since then, books containing highly complex works that were previously unimaginable have been published one after another, and they continue to appear in general bookstores. I have been holding origami classes regularly since around that time, and to this day, not a single kid (or former kid) has ever given up on origami. After all, these books probably provided a regular supply of good models, making it difficult for the "origami shift-away" to occur.

It is not clear to what extent this book was created with the reaction on the Internet in mind, but it is certain that it is linked to its popularity. If a publisher can decide to sell a book because a certain model goes viral, I want to pray that the origami world will continue to develop in this cycle as it becomes a topic of discussion on social media and becomes a driving force for book sales.

● **Best models selected by the author**

Excluding the "French Bulldog" for now (LOL), the two that stand out are Kyohei Katsuta's "Persian Cat" and Hideo Komatsu's "American Cocker Spaniel". I once owned a persian cat with the noble name "Kamei-Milkyyan-Mitz-Carbonara", and even though I was hated, I petted it every day and loved it, so that is my personal view on Persians. Aren't you satisfied with the ordinary shape? A truly stunning facial structure that shatters that arrogance into pieces. Carbonara has come back to life! That's what I feel like. What really made me sigh when I folded it was how to fold out the whisker pads (the bases of the whiskers) on the face (Figure 5). If you've ever tried to design a cat, you'll know that it is quite difficult to completely reproduce the nose, whisker pads, and lower jaw, or rather, the cost of the area is high. In short, the disadvantage is that the paper is too close to that part, which increases restrictions when modeling other parts, but all the

parts of the head are elegantly folded out from a single corner of 22.5 degrees. I was terrified. This is the true essence of partial modeling in origami, where "just a paper corner" becomes ever-changing. As an aside, the fact that you can fold out a complete set of head parts from a single corner means that you can make a "Neko-beros" (Cat-Cerberus) using three of the four corners of a square sheet of paper. There are people on the internet who are already doing it.

If the "Persian Cat" is the true value of partial modeling, the "American Cocker Spaniel" is the true value of whole modeling. If you have folded it, you may have noticed that there is no "base" shape in this work. It's almost finished when you collapse the crease pattern. The edges (faces) used in the model are common shapes for origami, but they fit together effortlessly to create a stunning "American Cocker Spaniel" statue. I felt like I had received a powerful blow that I had never experienced before, even though it was a basic movement like that of ancient martial arts. If you are wondering which one to start with, please start with these two models. Both are masterpieces that condense the fun essence of origami.

● Summary. Want a sequel?

Thanks to the rise of social media, origami models have been attracting attention from various people, and it has become easier for highly complex origami models to appear in the world, overturning conventional wisdom. This book can be said to be one of the new types of origami books that reflects the changes of the times. I highly recommend this book to anyone who feels unsatisfied with the moderately difficult origami models.

Now, after "Dragons" and "Cats & Dogs," what's next? Many people are probably already looking forward to it. I'm sorry to overturn the previous analysis, but I would like to see models that express various forms of dogs, and I would also like to see works of cats breeds other than Persian cats! As a refill, let me end with a random suggestion: how about "Origami Cats & Dogs Premium 2"!

List of Figures:

Figure 1 – Cover

Figure 2 – page 3 - Table of Contents

Figure 3 – Internet news covering "Tsumamare Nyanko"

Figure 4 – "Tsuru Alien"

Figure 5 – This is the whisker pad in "Persian cat" step 129.

(Page 26) Crease Pattern Challenge Challenge 1467: T-Rex By Kim Dong Hyeon

Created: 2022/11/30

Paper Size: 50x50cm

Length: 26cm

The features of this work include "easy" complex level, three-dimensional head, and color-change teeth. There are many models that depict teeth, but I wanted a work with an easy-complex level that expressed the teeth in detail. At the same time, I was careful not to focus solely on the teeth and neglect the three-dimensional design of the T-rex's head and body.

The first thing that came to mind was that the difficulty level could only increase if the head and all the upper and lower teeth came out from one end of the paper. Thanks to this idea, I have come to use a unique structure in which the upper and lower jaws come out diagonally from the farthest point from each other. This structure allows us to give more paper area to the head, allowing us to achieve both detailed design and easy difficulty. At first, I did my first test on a small piece of paper and had no choice but to express the teeth by color inversion, but this feeling was better than when I expressed it with "thorns" points, so I started using the teeth that were used for the test as is.

The structure of the piece is a T-rex folded using only the right isosceles triangle that is created when the paper is cut in half diagonally, but the paper on the head side is double, so it opens and forms the T-rex's head. It becomes the mouth. That's why the tail comes out from the center, but normally it's often inefficient to make the end part from the center, but in this work, a lot of paper is used for the head, making it heavy. The tail, which has the potential to tilt forward, was made of paper with the same area as the head, resulting in a piece that has a good center of gravity. Therefore, I am happy it can stand on its own feet.

The original work used 50 x 50 cm paper, but the size of the finished model will be reduced to about 16 x 26 cm. Therefore, we recommend using paper around 45cm in size to fold it into a suitable size. The paper weight is recommended to be around 40gsm. One thing to note is that the entire step is done with the paper folded diagonally in half and the two sheets stacked on top of each other, so you must be careful not to open the paper. Once you have created the base, the final step is to create a three-dimensional head.

**(Page 37) Orisuzi ("Fold Creases")
Go Back to the Basics: Modular Origami
By Kaito Nagayama**

In August, a solo exhibition was held at a small cafe gallery in Tokyo. We were lucky that so many origami enthusiasts from all over the country came to visit, as we opened the venue before and on the day of the convention (we had to force the cafe owner to postpone the Obon holidays). I am very grateful.

The solo exhibition focused on modular origami with a "star" motif and exhibited approximately 20 models, including 5 previously unpublished ones.

Many people said, "Nagayama is well-known for the Chameleon, so the model exhibition was surprising," but, for me, the modular origami is a return to basics. Modular origami was my first encounter with modern origami, and I have continued to create small modular pieces while focusing on single sheet folding. In recent years, that position has reversed, and now I am a modular origami artist whose hobby is completely single sheet. This is because, up until now, I had thought that the idea of modular origami had almost been exhausted, but that was not the case at all. I was walking on a snowy road with lots of footprints, staring at my feet and stepping on the few remaining snowflakes. When I looked up, I noticed that an unexplored field of snow was spreading out in front of me. Like a dog jumping into fresh snow and rolling around. Those of you who follow my X (former Twitter) may know that for the past hundred or so days, I have been creating modular works every day and posting the crease patterns. I don't have enough time to fold a complete assembled model every day, so I only show the crease pattern, and I feel sorry for those of you who want to see the finished model. However, for me now, it's more fun to keep rolling through the fluffy snowy fields than walking while keeping my foot firmly planted on the road.

My recent goal is to compile the "basics" of modular creation that I have cultivated up until now into a book. The groundwork laid down by our great predecessors, rather than by me, is one step before reaching the unexplored snowy plains. I believe that it is significant to sort this out once and for all.

As for the scenery where I'm walking now, I'll try to sort it out again 10 or 20 years from now, when I have the calmness to walk step by step.

**(Page 38) One Thousand and One Nights of Origami
By Jun Maekawa
Story 3 - La plus belle des sciences**

It's a lot of advertising, but it's a book with a long title that was recently published, "A book in which I deeply asked various people about the amazing ways mathematics can be used and enjoyed" (Nippon Hyoronsha, September 2023). My interview article was included in the book, and my essay was included in the book "Top Mathematics Selected by Mathematicians" (Nippon Hyoronsha, August 2023). Both books are based on articles from the magazine "Mathematics Seminar".

The title of the latter book is "A Mathematician's Choice," but since I am not a mathematician, I asked the editor several times, "Is it really that good?" In the essay, he took up the regular octahedron, and said that among the five types of regular polyhedra, the existence of the regular octahedron was like "a player with a strong defense who was selected for the national baseball team" or "a commoner's daughter who slipped into a ball." I wrote it, but it's also like myself in that book.

There is also the question of the definition of a mathematician, but I have no idea that I am a mathematician at all. However, all the previous titles of this column included numbers, such as "22.5 degrees" and "0.1 mm," and even when I oversaw the column two weeks ago, I changed the titles of the first and second columns. As the title includes numbers, I am a math fan who loves numbers and shapes. There is no doubt about that.

French literary scholar Paul Valéry said, "I am not an expert in mathematics, but only an admirer of it. I am a disappointed man who fell in love with this most beautiful woman in the world of learning." Vilchenko, translated by Takeshi Matsuno et al., Ohtake Publishing, 1995). It's not that I don't understand how you feel. However, when we learn about stories such as the genius Indian mathematician Ramanujan and the Russian genius Perelman who proved the Poincaré conjecture, which had been unproven for 100 years, mathematical talent is a kind of gift from heaven. Sometimes I wonder if it's a curse. It's a state of being possessed by it, beyond just liking it. My relationship with mathematics and origami is one of simple love, which I guess is a blessing in disguise.

(Page 39) Paper Folders on File File #99 – Oriol Esteve Report by Editorial team

Short bio

Oriol Esteve = (Barcelona, 1972) is a member of the AEP (Spanish Origami Association) and the OAS group (Origami Always Succeed), specialized on quick origami designs. His favourite subject is slightly cartoonish animals but keeping an essential approach.

■ How did you get started in origami?

In school, when I was around 8, a teacher showed me "la pajarita" (an old traditional Spanish model, a symbol for us as Japanese have the "tsuru"). At same time, my mother taught me a nice boat and a child older than me taught me the jumping frog. I even remember to organize jumping frog Olympic games! From 8 to 40 years old, my origami was less than 10 models, and my level was quite low.

Everything changed at 41 years old: I lost the job I love to do (I was movie journalist) and I found other guys that do origami.

■ When did you start creating?

With my new origami friends: Enrique Martínez, Joel García Moix (and later Marc Vigo), we realized that to be in a folding group was not satisfying.

What is nice is that one day, the pain disappears, but origami stays.

I keep designing and now I even like to work on the TV news too.

■ Are there any origami creators who have influenced you or who are your favorite designers?

There are two very influential authors: Peterpaul Forcher and Roman Diaz. It's not I tried to replicate them, it's more than what they make me feel when I see their work it's the same I would like to make people feel.

Probably, my taste was shaped by my own experience. I folded basic models for 30 years, so now I must admire essential designers.

Of course, Japanese designers are also influential all over the world. Not just Satoshi Kamiya, Jun Maekawa or Hideo Komatsu (I like him too since I feel Roman Diaz has a similar style). Also, Katsuta Kyohei and Gen Hagiwara are great: they both have a very dynamic stile, able to create simple or complex, a wide range, very unusual.

But speaking about influences, I think internet changed the game. You are constantly exposed to ultimate challenges or super expressive works. Internet is pushing us a lot to improve.

■ Please tell us if there are any particular points that you are particular about when creating

With your designs, do you want to amaze people or to seduce people?

Because I feel there is a super complex origami that when you see it you are overwhelmed by the technique because you will never achieve it.

This origami is almost a "cannibal" origami. It eats my desire to fold since it is too good for me.

In the other hand there is an origami that invites you to fold. You see it, and your desire to fold is increased.

I like so much this type. Ironically, in an exhibit, all the attention goes to the complex one.

Complexity is not a value. It's more like a register. Like a movie genre: you like comedies others like dramas....

While designing, I also put a lot of attention in "balance" (find the "sweet point" between effort and result) and "flow" (not boring process).

■ Please tell us about the activities of OAS.

Being in OAS (Origami Always Succeed [sic]), helped us to develop our skills in designing very quickly.

The main legacy of OAS is the attitude. We have designed in bars interacting with people. I think some origamists feel ashamed to fold in public and we want to change completely that! Origami is cool, you must feel almost like a rock star! But don't take your skill so seriously neither!

OAS doesn't care so much for the artistic value of origami; we prefer the bonds between people. I guess we may be a kind of "Monty Python" of origami...

■ What is your relationship with the Japan Origami Academic Society?

Admiration, first. Being invited to participate in the Tanteidan is a milestone. Like playing football in Maracanã. You can't find so much talent in the same room!

Also, I feel a lot of respect for Yamaguchi-san. He is charismatic but also very funny.

Any JOAS member project a great respect for origami. The way they care about any detail or how they want to achieve a good convention tells a lot. It's very inspiring.

■ Please tell us about your future activity goals.

In a few months I will publish my third book: "Crease crazy". But I prefer to not see the future as a to do list of goals. You will probably miss the joy that is in between if you behave like that.

Of course, I hope to come quite often to Tanteidan, at least every summer I'm visiting my wife's family (She is from Iwate).

So, this is not a "sayonara" farewell, it's more a "matane" (see you soon), my friends.



Application for the 13th Nagoya Convention December 2nd (Sat) - 3rd (Sun) Nagoya University of Arts West Campus

We will be holding the 13th Origami Tenteidan Nagoya Convention.

We welcome Jang Yong Ik, a young Korean creator, the special guest. We will enjoy interacting with young artists.

We look forward to your participation.

- Date: December 2nd (Sat) - 3rd (Sun)
- Venue: Nagoya University of Arts West Campus Nagoya Railway [Tokushige/Nagoya University of Arts] Approximately 1 km west of station, about 15 minutes on foot
- Limit of participants: 200 people
- Participation fee
[Adult] 5,000 yen
[Student] 4,500 yen
[Parent-child discount] 2,500 yen/person
*Parent-child discount is for elementary school students and younger and will be limited to two individuals per adult participant.
- How to apply
Information on whether to participate online and how to participate will be announced from October onwards on the Origami Tanteidan Tokai Tomonokai website (http://anabas-plan.net/joas_toukai/).
- About parent-child discount
Parent-child discounts can be applied to up to two children of elementary school age or younger who participate together with their parents. Parents do not have to be biologically related with the children, but they are required to pay a participation fee even if they accompany the child. Participating in the classroom will require you to participate in the same classes. (Elementary school students who are not eligible for parent-child discounts are treated as "students")
The same price applies even if you only participate for one day.

The origami paper set is for one person, and the name tag and commemorative goods will be distributed by number of people. All classes will be open to all.

- Dinner Banquet - 2nd (Sat) (Junior high school students and above)

Applicants only

[Adult] 5,000 yen (estimated)

[Junior high and high school students] 3,000 yen (planned)

- About accommodation

We ask that all participants to handle their own rooms by themselves.

- About model exhibitions and contests

We will set up an exhibition zone for participants' models within the venue. We also plan to hold special exhibitions by Tokai Tomo-no-kai members.

In addition, we will hold a creative origami contest (your own original model).

One grand prize winner and two grand prize winners will be selected based on popularity vote among convention participants, and prizes will be presented to them, so we look forward to receiving many applications. No pre-registration is required, so please feel free to bring your own work.

Only convention participants may participate in the contest.

- Call for origami class instructors

We are looking for everybody to be a lecturer at the Nagoya Convention. Why not take this opportunity to participate as a lecturer? For origami classes, we are also planning online classes (hybrid with on-site classes). We are also considering calling for instructors online, so please check the Origami Tanteidan Tokai Tomo-no-kai website (http://anabas-plan.net/joas_toukai/), which is scheduled to open in October.

- Origami instructor

We are calling for candidates to become origami instructors for the Japan Origami Academic Society. We also offer origami instructor certification based on the instructor system, so if you would like to obtain the qualification, please take this opportunity to apply.

QR Code = Tokai Tomo-no-kai Association will be posted here from October.

◆ 35th Origami Science Mathematics Education Research Conference

The 35th Origami Science, Mathematics, and Education Research Meeting will be held. Details will be provided on the website.

◇ Date, time and overview

November 18th (Sat) 13:00-17:30 Lecture (hosted by the University of Tokyo), gallery tour, workshops.

Sunday, November 19th 10:00-17:00 Oral presentation.

◇ Venue: University of Tokyo Komaba Campus

◇ Participation fee: On-site participation: 2000 yen, online participation (11/19 only): 1000 yen

◇ Call for presenters (until October 26th)

No special qualifications are required. Please send the following information via email (osmej@origami.jp).

E-mail title: Request for presentation at the 35th Research Conference

E-mail contents: Name, contact information, presentation title, presentation summary (up to 200 characters), desired presentation time Including Q&A (short presentation of up to 5 minutes, or presentation of up to 20 minutes)

◆ 13th Korean Origami Convention Report By Gen Hagiwara

The week after the Tanteidan Group convention [in Tokyo], I had the opportunity to participate as a guest at the Korean Origami Convention held in Seoul on August 19th and 20th. Another guest was Makoto Yamaguchi, who has had a long-standing relationship with the Korean Origami Association. The day we arrived in South Korea was his birthday, and it was impressive to see the celebration with a big cake and presents, as it seemed to show the bond between the two.

It had been a long time since the event was held locally, and the venue was buzzing with excitement from the first day. Many of the participants were elementary and junior high school students, and they looked just like Japanese kids as they opened and folded the origami book they had just received. After the opening ceremony, which began with thunderous applause, [Makoto] Yamaguchi gave a speech. The content was a look back at his encounter with origami, up to the present day. Origami classes started in the afternoon. A total of 26 classes were held over the two days, and I taught two models. It had been a long time since I had presented a class with an interpreter, and there were many children, so I was worried about whether it would be completed in time. But once I started, it went very smoothly, and I was able to see the solid skill of the Korean origami world.

Although it was held locally, the banquet dinner was postponed due to the ongoing effects of the coronavirus pandemic, but the popular origami entertainment was held as a social gathering. All participants participated in flying paper airplanes [contest]. I was the first to fly my paper airplane, which didn't even come close to the target. The Quick Paper Banger folding competition was held for students.

A small boy made it to the finals and excited the audience.

On the second day, I took my time to look around the exhibition hall. Many of the exhibits were complex models by young folders, and I was awed by their technical ability. In the afternoon, an autograph session was held by the young group ORIGAMI PRO, and fans lined up with copies of their recently published collection "POTENTIAL." Before the closing ceremony, I gave a lecture where I introduced creative models using the traditional bases, along with actual examples.

Finally, I would like to take this opportunity to thank everyone at the Korean Origami Association, my friends at ORIGAMI PRO, and Makoto Yamaguchi, who recommended me as a guest.

◆ Overview of the 28th Origami Tanteidan Convention By Takuro Kashiwamura

■ Introduction

First, I would like to thank everyone who participated and cooperated with this convention. I believe that it is thanks to all of you that I was able to fulfill my role, even if I was a little immature. As a project leader, I will provide an overview of the event in this article.

■ Background

It was in February that I received a request from Seiji Nishikawa to rent the Yayoi Auditorium for a convention, and from then on, I was appointed to be the leader along with Gen Hagiwara. The requirement was the come-back of the in-person convention. After the Covid pandemic, the convention was held only online. To connect to the benefits and experiences of an online experience, we have decided to hold a hybrid event.

■ What I did first

First, due to the prerequisites of using Yayoi Auditorium, we decided to limit the number of participants to approximately 200, based on the number of classrooms and equipment available. Also, we decided to increase the participation fee due to the increase in venue costs. We decided to hold social gatherings after Covid was reclassified as Category 5 [by the Japanese government]. Additionally, since the magazine serves as the basis for announcements, we have scheduled events based on the publication date of the magazine.

■ Management based on goodwill

This was my first time managing an event with such large number of participants, not just a convention. I'd like to believe that there are no bad origami fans, but it's difficult to know how much you can trust someone when you first meet them. At first, I was very cautious, but based on my belief in the goodness of nature due to my past experiences, I decided to some extent relax the requirements for instructor recruitment, on-site reception, popularity voting, and exhibition methods. It was also effective in terms of saving labor on the management side.

■ Major changes

Based on our experience with online systems, we decided to make various applications and payments completely online, and to communicate with participants via the website and email. This was essential for advance preparation and day-of operation with a minimum number of secretariat staff.

■ Uncertain matters and countermeasures

The uncertain factors were people and the weather. Things related to people include special guests, securing instructors, popularity voting models, and whether enough people will gather for exhibitions. The solution to these problems was to call out and prepare alternative plans. Regarding the weather, the biggest concern was the risks of Typhoon 7 landfall. I think event insurance is a countermeasure, but eventually, it only provides financial compensation. We considered what to do in the event of a typhoon and rain, and in the end, we had no choice but to pray to heaven.

■ On the day

Once the day started, all the volunteers worked smoothly and were very helpful. Even if there were gaps, it was an event we will never forget. Thanks to [Gen] Hagiwara, everything went smoothly with the newly introduced online broadcast. We had 139 individual votes for the [model] popularity content, so we believe that it was received.

■ Future

There are many things to reflect on, but I would like to point out one item. Despite of a high-cost participation fees, many classes were ended early, so that is something that needs to be improved. I remember that in the past, new generation members provided voluntary support. It may be a good idea to train volunteers to support classes.

◆ WOD 2023 10/24 ~ 11/11 WOD (World Origami Days)

WOD will be held from October 24th (the birthday of Lillian Oppenheimer, who helped popularize origami around the world) to November 11th (The Origami Day, which was established in Japan in 1980.) The idea is to carry out various origami activities with the aim of spreading origami to more people. OrigamiUSA and JOAS have been working together since 2011 to further expand this WOD activity. JOAS will hold three events this year as well.

[My WOD report]

This is a project to present origami models using social media that started in 2014. During the WOD period, please post your favorite folded works on social media (WOD page for Facebook). A "WOD entry sheet" can be used to take photos to be posted. Please download the designated sheet from the Japan Origami Academic Society website, fill in the name of the model, the name of the folder, the name of the creator of the model, and the region (country) of residence, place the work on the sheet, and take a photograph. You can also paste the filled-out part onto the photo.

(See explanatory photo on WOD website). Use hashtag #MyWOD. Submitted photos will also be used in art museum exhibition pages.

[Art Museum Exhibition]

Starting October 24th, "My WOD" photos and information will be posted in due course on Facebook, X (former Twitter), Instagram.

[Origami theme exhibition]

The theme is next year's zodiac sign "Dragon". It doesn't matter if it's old or new model, as long as it's the creator's own design.

Online exhibition: The submission method is the same as "My WOD report". It will be posted on the webpage of the art museum. You can also send photos directly to the email below.

- Email for submission: wod@origami.jp
- JOAS official website: <https://origami.jp> (inquiry form)
- Please see the special web page below for OrigamiUSA's WOD activities. <http://origamiusa.org/wod>